5
通

普通第六三號

昭和十一年三月三十日

在浦潮斯德
總領事 杉下裕次郎

外務大臣 廣田弘毅殿

「ダリゴスルイブトレスト」造船所ノ獨立營業ニ關スル件

本月十二日ノ「エル、イ」紙所報ニ依レハ從來「ダリゴスルイブトレスト」ノ配下ニアリテ漁業用小船舶ノ建造及修繕ニ當リ來レル當地「ヂオミツド」灣所在ノ造船所ハ本年二月十一日附「ソ」聯食料品工業人民委員「ミコヤン」ノ命令ニ依リ本年一月一日以降浦潮漁業造船所ト稱スル「グラフルイバ」直屬ノ獨立企業トナリ「セダシ」ナルモノ所長ニ就任今後專ラ「ダリゴスルイブトレスト」、北部沿海「ゴスルイブトレスト」及「テンブ」ノ三「トレスト」所屬漁業船隊ノ修繕ニ當ル外本年度ニ於テハ三百萬留ノ資材ヲ以テ川崎船一八〇隻、氷室附三羽船三隻、百噸積浮舟五隻及七十五馬力ノ「セイネル」船二隻ヲ建造スル計畫ナルガ更ニ又一九三七年度造船計畫（各三百馬力冷藏船五隻、各百四十馬力「セイネル」船一〇隻、同七十馬力一五隻、三十馬力川崎船一五〇隻）ニ要スル部分品ノ調達ヲモ開始スヘシト謂フ

右報告ス

本信寫送付先 在「ソヴイエト」聯邦大使
在「ハバロフスク」總領事

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0150
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

各國船渠並造船業關係雜件

昭和11 六五八五 4.10 略 莫斯科 九日後發 歐、情
本省 四月十日前着

有田外務大臣

第二六五號

九日「プラウダ」ハ四月中裏海沿岸ニ於テ五千噸級ノ船舶ヲ修理シ得ヘキ浮「ドック」進水スヘク右ハ近來增大セル極東蘇聯商船隊ノ修繕ヲ目的トスルモノナルカ本夏中强力ナル曳船二隻ニ依リ太平洋方面ニ廻航セラルヘキ旨報道セリ

浦潮ヘ轉電セリ

外務省

S 61401 130

文書課長

文書課發送 昭和拾壹年四月拾八日發送濟

主管 歐亞局長

主任 第一課

歐一 機密 普通 第一四八 號

昭和拾壹年四月拾八日 附

昭和十一年 月十九日起草

浄書 校正(原稿) (浄書)

別紙

受信人名 陸軍省 軍務局長
參謀本部 第二部長
海軍省 軍務局長
軍令部 第三部長

発信人名 歐亞局長

名件記錄 各國船渠並造船業關係雜件

件名 「ダリッスルイブトレスト」造船所ノ獨立營業ニ關する件

本件ニ關シ今般在浦潮斯德帝國領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考迄爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍軍事調査部長、參謀本部第二部長、軍令部第三部長

(昭和十一年 月 日附在浦潮館來(電)機密第七三號寫並陸軍關係)

外務省

公信案

要寫一部

縣案

	發信用	執務用	
主信	4	1	5
附屬 甲	4	1	5
乙			
丙			
丁			

備考

S 61401 131 18 16

F-0058

0151

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通

歐亞局

公第九一號

昭和十一年六月六日

在オデッサ
領事　平田　毅

外務大臣　有田八郎　殿

浮船渠完成ノ件

六月四日附「ニコラエフ」發電トシテ五日附當地機關紙所報ニ依ルニ「ニコラエフ」第六十一號造船所ニ於テハ今回五千噸ノ收容力アル浮船渠（長サ百三十米）建造セラレタル由ナリ蘇聯邦ニ於テ浮船渠ヲ建造セルハ之ヲ以テ嚆矢トシ尚同造船所ニ於テハ同樣ノ浮船渠三個ヲ完成シ蘇聯ノ諸港ニ配屬セシムルトノコトナリ

右報告ス

本信寫送付先　在蘇大使

在オデッサ日本領事館

昭和十一年六月廿日　接受

S 61401 132

F-0058

0152

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	4	1	5
附 甲	4	1	5
乙			
丙			
屬 丁			

備考 [illegible]

要寫 一部

懸案

文書課長

文書課發送 昭和拾壹年七月七日 發送濟

主管 歐亞局長

主任 第一課

歐一 機密 普通 合第 二六四六 號

昭和拾壹年 七月七日 日附 附屬

昭和十一年七月七日起草

淨書 校 正 (原稿) (淨書)

別紙

受信人名 陸軍省 軍務局長 / 參謀本部 第二部長 / 海軍省 軍務局長 / 軍令部 第三部長

発信人名 東亜 歐亞局長

記錄 関係雑件 船渠並造船業

件名 「ニコラエフ」造船所設備完了ノ件

本件ニ關シ今般在「オデッサ」帝國領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省軍務局長、參謀本部第二部長、軍令部第三部長

(昭和十一年七月 日附在オデッサ館來電第 號寫並附屬書類)

公信案

外務省

S 61401 133 7 19

寫送先

大臣

次官

電信課長

東亞 / 歐亞 / 米洲 / 通商 / 條約 / 情報 / 文化 / 調査 / 人事 / 文書 / 會計 / 祕書官

昭和11 一八五五〇 オデッサ 廿四日後發 9.26

本省 九月廿五日前着 歐

有田外務大臣

平田領事

第五號(極秘)

當地「マルチ」造船所ハ其ノ浮「ドック」ヲ浦潮ニ海路輸送ノ命ヲ受ケタルカ遠カラス當地ヨリ約六箇月間ノ豫定ニテ曳航スヘシト右曳航船乗組ノ水夫ヨリ内密聞込ミタリ露ヘ暗送セリ

外務省

S 61401 134

F-0058

0153

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

欧亞局

第一課

昭和十二年二月四日　接受

（赤枠紙）

普通第四四號

昭和十二年二月四日

在「ソヴイエト」聯邦
特命全權大使　重光

外務大臣　林銑十郎殿

新碎氷船「スターリン」號「モロトフ」號ニ關スル件

本件ニ關スル客年十二月十六日附普通第三六八號ヲ以テ報告致置タル處二月三日附「モスコー、デイリー、ニュース」ニ更ニ大要左ノ記事掲載セラレタルニ付何等御參考迄報告ス

新碎氷船「スターリン」號及「モロトフ」號ノ建造ハ完了ニ近ツキツツアリ兩船トモ一萬噸ニシテ新建造豫定船四隻（「クラツシン」號型）ノ内ノ二隻ナリ

兩船トモ本年ノ航海期ヨリ北氷航路ニ從事スル豫定ニシテ「スターリン」號ハ四月ニ「モロトフ」號ハ少々遲レテ進水セラルル筈ナリ

之等新造船ハ機關ノ能力ニ於テハ「クラツシン」號ト同等ナルモ「クラツシン」號ヨリモ船體强大ニシテ且少々長ク石炭庫廣ク「ラヂオ」裝置强力ニシテ科學研究者ノ爲ニ「ラボラトリー」ノ裝備ヲ有ス云々

（赤枠紙）

F-0058
0154
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部

要務二部

受信用	執務用

主附属			
信	甲		
	乙		
	丙		
	丁		

備考 第五門／類四項〇目

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年參月拾日 發送濟

主管 欧亜局長 主任 第一課長

欧一普通 第 1033 号 昭和拾貳年參月九日

昭和十二年三月廿六日起草

浄書 校正 (原稿) (浄書)

別紙

受信人名 海軍省豊田軍務局長 / 軍令部 野村第三部長

発信人名 東郷欧亜局長

件名 「ソ」聯邦新碎氷船ニ関スル新聞記事譯報ノ件

記録件名 各國船渠並造船業要覧

本件ニ関シ今般在「ソ」聯邦重光大使ヨリ別紙写ノ通報告アリタルニ付御参考ノ為右茲ニ送付ス

公信案 (昭和十二年二月四日附在「ソ」大使館来信第四四号写送付ノ件) 外務省

S 61401 137 9 135

F-0058

0155

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F門1類4項0目 3

欧亜局

公第四六號

昭和十二年三月十九日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 佐藤尚武殿

浮船渠浦潮曳航ノ件

本件ニ關シテハ曩ニ本年一月五日附公第一號揮信提出ノ「オデッサ雑報」中一部及報告置キタル通リナルカ本件ニ關シ三月十八日附當市機關紙ノ報道スル處大要左ノ如シ

曩ニ「ニコラエフ」市所在「六一」造船所ニ於テ建造セル浮船渠（五千噸）ハ當港ニ回航シ加工中ナリシ處今般工事竣工セル爲メ茲數日中ニ曳航船「タイフーン」（Typhoe）及砕氷船「トロス」（Traiyone）ノ二隻ニヨリ浦潮ニ向ケ曳航出發ノ豫定ナリト

經路ハ印度洋、南支那海、黄海、日本海經由ニテ曳航所要日數約三

在オデッサ日本領事館

ケ月ノ筈ナルヲ以テ浦潮着ハ六月下旬ナルヘシ

右報告申進ス

本信寫送付先 在露大使、在浦潮總領事

在オデッサ日本領事館

F-0058

0156

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一課

昭和十二年四月廿日 接受

昭和十二年四月九日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 佐藤尚武殿

浮船渠出港ノ件

浦潮斯德行浮船渠ハ去ル三月下旬當港ヲ出發セルモ曳航設備不完全ナリシ爲メ再ヒ當港ニ引返シ準備中ナリシカ新聞發表ノ再出發豫定日取タル四月一日ニ出港シ待ス漸ク四月八日當港發印度洋經由曳航ノ途ニ就キタリ

右報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在オデッサ日本領事館

61401 140

F-0058

0157

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	4	2	6
附屬 甲	〃	〃	〃
乙			
丙			
丁			
備考			

要寫
懸案 キリ

文書課長

文書課發 昭和拾貳年四月拾六日發送濟

主管 歐亞局長

主任 第一課

浄書 校（原稿）（浄書）

昭和十二年四月十四日起草

歐一 機密 普通 第一七二八號

昭和拾貳年四月拾五日 日附

附屬

受信人名
陸軍省 後宮 軍務局長
參謀本部 渡 第二部長
海軍省 豊田 軍務局長
軍令部 野村 第三部長

發信人名
東郷 歐亞局長

名件錄記

件名
浮船渠浦潮戍航ニ關スル件

本件ニ關シ今般在「オデッサ」平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先
陸海軍省、參謀本部、軍令部

（昭和十二年三月十九日附在オデッサ領事館來（往）電 普機第四六號寫並附屬書寫）

公信案

外務省

15 229

S 61401 141

F-0058

0158

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歐亞局

公第八四號

昭和十二年五月六日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 佐藤尚武殿

蘇聯造船計畫ニ關スル件

一九三七年度蘇聯造船及外國ヨリノ船舶購入豫定ニ關シ諸新聞ノ報道スル處ヲ綜合スルニ左ノ如シ

在オデッサ日本領事館

昭和十二年六月壹日 接受

一、蘇聯造船所

市名	造船所	隻數	船名	噸數	竣工豫定期	備考
オデッサ	マルケ	一	ギジガ	一〇、〇	年初	貨物船
〃	〃	一	コート・ブロント	一〇、〇	年末十月	〃
〃	〃	一	スバルタコヤツ	一〇、〇	年末十月	〃
ニコラエフ	マルケ	二		三〇、〇級		貨物船
〃	〃	一	ディクタトル	一〇、〇		貨物船、オデッサ浦潮航路用
〃	〃	一	サハリン	七、九	四月竣工濟	油槽船
〃	〃	一	ドンバス	一〇、五	夏	〃
〃	〃	一	ペレドヴイク	二、一	夏	〃
〃	六人	一	アゼルバイジャン	七、九	六月	油槽船
〃	〃	一	コレクチヴイサチヤ	五、〇		鉱石輸送船（アジア海向ケ）
〃	〃	一	ストロイエリストシオ	五、〇		〃

在オデッサ日本領事館

F-0058
0159
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

レニングラード	二	浮船渠	各五〇級	十月	一ハ埔潮ヘ廻送、四月初ヨリ出ヒ、一ハカムチヤツカ漁場間ヲ往復ス
	一	ピネガ	三二		水産輸送船

二、外國註文

佛國	一	ウズベキスタン	三四	八月	水産輸送船、北氷洋向ケ
丁抹	一	カザクスタン	三四	八月	客船、近東航路用
	一				

其他日本ニ對シ曳航船、淺渫船等特務船數隻註文ノ豫定ナリ

尚「ニコラエフ」「マルチ」造船所ニテハ一九三五年ノ計畫ニ係ル蘇聯最大ノ碎氷船「ラザリ・カガノウイチ」及「オツト・シユミド」(三六〇〇噸)ノ内前者ハ四月末進水今秋迄ニ艤装ヲ終ヘ北氷洋ニ廻航セラルヽ豫定ナリ

右何等御參考迄報告申進ス

在オデッサ日本領事館

S 61401 144

F-0058

0160

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信			
附屬 甲			
乙			
丙			
丁			
備考			

文書課長 代

文書課發送 昭和拾貳年五月拾日 發送

主管 歐亞局長

歐一 普通 合 第 二一二一 號

昭和拾貳年五月拾日 附屬

主任 第一課長

昭和十二年五月七日起草

淨書 校 正 (原稿) 不破 (淨書)

受信人名 陸軍省 後宮軍務局長 / 參謀本部 渡 第二部長 / 海軍省 豊田軍務局長 / 軍令部 野村第三部長

發信人名 東郷歐亞局長

名件録記 各國船渠並造船業ニ關係雜件

件名 浮船渠浦潮曳航ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月十五日附欧一合第一七二八號ヲ以テ及通報置キタル處今般在「オデッサ」平田領事ヨリ別紙写ノ通報告アリタルニ付御參考迄右茲ニ送付ス

公信案

外務省

S 61401 145

10 107

本信送付先

陸、海軍省 參謀本部 軍令部

(昭和十二年四月九日附在オデッサ領事館來信第六八號写)

公信案

外務省

S 61401 146

F-0058

0161

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部受課

H門/項目3

歐亞局

機密公第八九號

昭和十二年五月十一日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 佐藤尚武殿

浮船渠ニ關スル件

最モ確實ナル情報ニ依ルニ目下印度洋經由曳航中ナル浮船渠（四月九日附公第六八號拙信）ハ完成セラレタルモノニ非スシテ其半分ナリト他半分ハ「ニコラエフ」工場ニテ建造中ニテ之ト繫キ合シノ上完全ナル浮船渠トナルモノナリ完成ノ上ハ一萬八千噸迄ノ船舶ヲ收容シ得ヘシト

右不取敢報告ス

本信寫送付先 在蘇大使、在浦潮總領事

在オデッサ日本領事館

昭和十二年六月壹日 接受

各主船源並ニ船業関係

S 61401 147

歐亞局 第一課

公第九五號

昭和十二年五月二十七日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 佐藤尚武殿

浮船渠ニ關スル件

本件ニ關シ摩太及報告置キタル摩「ロストフ」市黨委員會機關紙「モーロト」紙（五月十六日附）ニ本件關係記事掲載セラレタルニ付別紙譯文ノ通リ報告ス

大要左ノ通リ報告ス

本信寫送付先 在蘇大使、在浦潮總領事

在オデッサ日本領事館

昭和十二年六月拾六日 接受

S 61401 148

F-0058
0162
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

記

目下浦潮斯德ニ曳航中ノ浮船渠ハ二個ノ獨立セル船渠ノ一部ニシテ必要ノ場合ニハ之ヲ接合シ一個ノ船渠トナスコトヲ得ルモノナリ各個ノ浮揚力五千噸ナルヲ以テ接合セハ一萬噸ナリ

目下曳航中ノ浮船渠ハ「オデツサ」出發後曳航綱ノ不備ノ爲「オデツサ」ニ引返シ時日ヲ失ヒタル爲メ初メノ「コロンボ」經由ノ豫定ヲ變更シ南「コース」ヲトリ以テ七百浬ノ距離ヲ縮少スルコトヽセリ

曳航船ノ一タル「トロス」ハ遠洋航海ニ不適當ナルヲ以テ「アデン」港ヨリ「オデツサ」ニ引返シ「セルゲイ・キーロフ」號之ニ代ル豫定ナリ

第二ノ浮船渠ハ來ル十一月同航路ニ依リ曳航スル計畫ナルカ其曳航ハ第一船渠ノ經驗ト印度洋ニ於ケル季節ノ關係上遙ニ容易ナルヘシ

目下ノ曳航司令タル「ゴールブ」（グリゴリー・イワノウイチ）ハ「アゾフ」州ニ生レ一九二六年「ロストフ」商船學校ノ卒業生ナリ

在オデッサ日本領事館

同氏ハ浦潮斯德ヨリ北氷洋經由「ムルマンスク」迄碎氷船「リトケ」ニテ航海セル廉ニ依リ勞働赤旗勳章ヲ又國防上ノ功績ニ依リ「レーニン」勳章ヲ授與セラレ居レリ云々

（ロストフ商船學校教授クズネツオフ）

在オデッサ日本領事館

F-0058

0163

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和12　一〇四四〇　暗　上海　四日後發　歐
本省　六月四日夜着

廣田外務大臣

第三三一號

本官發巻港、新嘉坡宛電報

合第一四八號

蘇聯邦浮「ドツク」一印度洋經由浦潮ヘ廻送ノ爲五月中旬曳船ニテ黑海ヲ出發セリトノ聞込アリ御注意ノ上貴地寄港ノ節ハ容積等御取調ヘ御回電ヲ請フ

大臣ヘ轉電セリ

岡本總領事

外務省

S 61401 151

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和12　一〇五七五　暗　新嘉坡　五日後發　歐
本省　六月五日後着

廣田外務大臣

第五五號

本官發上海宛電報

第二號

（浦潮ヘ廻送ノ蘇聯浮「ドツク」ニ關スル件）

貴電合第一四八號ニ關シテハ「オデツサ」發「タス」通信トシテ相當詳細ニ五月二十一日當地各紙ニ報道セラレ居ルヲ以テ貴地方ニ於テモ勿論同樣ノコトト存セラル當地通過ノ際ハ親シク目擊シタル上報告スヘキハ充分心得居レリ

郡司總領事

外務省

S 61401 152

F-0058

0164

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務省

大臣、香港ヘ轉電セリ

外務省

S 61401 153

外務省

極秘 第七四八號

電報

次官
次長 宛

昭和一三、六、一三

上海大使館附武官

件名 各国船舶並造船業事情

本十二日午後十時三十分蘇邦浮船渠ラシキモノ新嘉坡沖ニ假泊セリトノ「ル」社電アリ

詳細ハ更ニ取調ノ上後報スヘキモ取敢ス

（上海電第六九一及七二六號參照）

六、一三後九、〇〇着發

S 61401 154

F-0058

0165

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務省

歐亞局長

極秘 第七五三號

電報 昭和一三、六、一三

次官
次長 宛 上海大使館附武官

蘇邦浮船渠ハ新嘉坡ニテ郵便物ヲ受取リ直ニ該港ヲ出發セリ香港ニ寄港ストノコトナリ船渠ハフタイフン「タイリス」ノ二隻ニテ曳ヤレ別ニ護衛艦一隻之ヲ

S 61401 155

護衛シアリ
(第三艦隊ニ通報セルモ軍令部ニモ傳ヘ能力確メラレ度)
括弧内ハ次長、次官ノミ

廣スミ

六、一三後八、一〇發
三〇着

S 61401 156

F-0058

0166

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

(分類F門/類4項0目 3)

昭和12 一一一六一 略 新嘉坡 十三日後發 歐
本省 六月十三日夜着

廣田外務大臣

郡司總領事

第五七號

黑海ヨリ浦潮ヘ廻航ノ「ドライ・ドツカ」(五千噸)ハ十二日午前當港沖ヲ六哩半ノ速力ニテ通過セリ尚曳船々長ノ「インタビュー」ニ依レハ右ハ七月八日浦潮着ノ豫定ナルカ更ニ又四箇月以内ニ他ノ「浮船渠」モ同樣廻送セラルヘシト報セラル

浦潮ニハ然ルヘク御傳達請フ

上海、香港ニ轉電セリ

件名 各國船渠並造船業關係雜件

外務省

S 61401 157

F-0058

0167

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歐亞局 第一課

公第一〇九號

昭和十二年六月十四日

在オデッサ
領事 平田 稔

外務大臣 廣田弘毅殿

大浮船渠建造開始ノ件

六月十日附「キエフ」黨機關紙「コンムニスト」ニ「ヘルソン」電報トシテ左ノ記事發表セラレタルニ付御參考迄報告ス

「六千噸及四千噸ノ二大浮船渠ノ建造「ドックストロイ」ニ於テ開始セラレタリ右兩浮船渠ハ縫目ナシノ鐵「ベトン」ノ構造ナリ六千噸ノ分ノ底部全部ハ「ベトン」ヲ敷カレ近ク四千噸ノ分ノモ開始セラルヘク本年十一月ニハ兩浮船渠共進水ノ後所要機具ノ据付ヲナス豫定ナリ」

本信寫送付先 在露大使

在オデッサ日本領事館

昭和十三年七月六日 接受 D

第一部相へ

S 61401 158

通商局

在ペトロパウロフスク

普通公信 七號

昭和十三年六月十五日

領事 小柳雪生

外務大臣 廣田弘毅殿

「ペ」港船舶修理工場ニ関スル件

「ペ」港船舶修理工場ハ「アワチヤ」湾内「ラーコワヤ」入江（市ノ前面左岸ニ位置ス）内ニ在リ同地一帶ハ通行禁止地帶ニシテ一般内外人ノ出入ヲ禁止シ居ル関係上設備内容ヲ目撃チスルコト不能ニシテ僅ニ新聞ノ断片的

在ペトロパウロフスク領事館

昭和十三年六月廿九日 接受 E

S 61401 159

F-0058

0168

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

報道ニ依リ窺知スル外ナキ有様ナルカ本工場ノ
第一次計画ハ蘇聯邦共産党及政府ヨリ一九
三六年ノ革命記念日迄ニ竣工スベキ命ヲ受ケ
一九三四年起工セラレニヶ年ヲ経過シ完成期日
タル一九三六年十一月六日竣工ヲ見タルモノニシテ鋳
物、鍛冶、機械ノ三工場ヨリ成ル「アコ」会社技
師長ノ言トシテ新聞ノ報スル所ニ依レハ船体ノ
大修理以外ノ一般修理（「シリンダー」、「ピストン」、
「モーター」汽罐等）ノ為ニハ現在ノ工場設備
鞴、熔鉱炉、大槌等）ニテ充分ニテ本工場カ未タ
建設期中ニ在リタル一九三五年九月ヨリ三六年
十一月迄ニ修理サレタル船舶四十隻ニ及ヒ其ノ
中六「ヤクート」号、「コルイマ」号、「ダリネラオストーチニ」

号、「ブレウエストニーク」号アル趣ナルカ其ノ後修理ヲ受ケ
タル船舶ニ「ロゾフスキー」号「カルルマルクス」号「イテリ
メン」号「カムチヤダール」号等アリ修理ノ成績概ネ
良好ナル旨報シ居リ尚食料工業人民委員
「ミコヤン」カ本年一月中「アコ」会社々長及「カムチヤト
ストロイ」支配人ニ対シ本工場地帯ニ工場従業
員及労働者用トシテ給排水及電力設備
ヲ有スル住宅二百五十軒ノ建築ヲ許可シタル
旨及工場勤務員及労働者ハ夫族ヲ合セ五
千人ナリト報シ居ル点ヨリ見ルニ本工場ハ相当大
規模ノモノト認メラル
右報告ス

F-0058
0169
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和12　一一八八九　暗　香港　廿三日後發　歐
本省　六月廿三日夜着

廣田外務大臣

第八五號

本官發上海宛電報

第一八號

貴電合第一四八號今次蘇聯浮「ドツク」廻航隊ハ二十一日朝運送船ノ入港ニ引續キ昨二十二日午後二時兩曳船ニ曳カレ「ドツク」來着當地ニ於テ炭水、食料、補給並ニ乘員ニ休養ヲ與ヘタル上來ル二十六日出帆浦潮ヘ向ケ直航スヘキ豫定ナリ各船噸數及性能等左ノ通リ

一、「ドツク」總噸數五千噸、長サ約百米、幅約二十五米（兩壁ノ厚サ各二米ヲ含ム）、高サ約三十米（吃水約三米ヲ含ム）、建造地「ニコライエフスク」、搭乘員指揮官「ポラブ」以下三十名、用途小型軍艦、潛水艦及蟹工船等漁船ノ修理

二、曳船「トロス」號總噸數約八百噸將來浦潮ニ於テ曳船トシテ使用スヘキ筈

三、同「タイフン」號總噸數約百噸同樣碎氷船ニ充ツヘキ由

四、運送船「セルゲイケロフ」號總噸數二千三百六十四噸曳船用諸材料、糧食及外ニ銑鐵三千噸ヲ積載シ護衛ノ任務ヲ兼ヌ（仔細郵報）（了）

外務省

S 61401 162

S 61401 163

F-0058
0170
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	6	2	6
附 甲	6	2	6
附 乙			
附 丙			
附 丁			
備考	五門/類似ノ電報アリ		

調査第二課

要寫 二部

懸案

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年六月廿五日發送濟

主管 歐亞局長

歐一 普通 合第二八一九號 昭和拾貳年六月廿四日

主任 第一課長

昭和十二年六月二十三日起草

淨書 校正 (原稿) (淨書)

別紙

受信人 陸軍省 軍務局長 / 參謀本部 第二部長 / 海軍省 軍務局長 / 軍令部 第三部長

発信人 歐亞局長

件名 浮船渠ニ關スル件

記錄 各國船渠並造船業 件名 英佛雜件

本件ニ關シ今般在「オデツサ」平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

陸、海軍省 參謀本部 軍令部

本信送付先

(昭和十二年五月二十七日附在「オデツサ」領事館來(往)電第九五號寫並附屬書寫)

外務省

S 61401 164 記24 165

機密

(別紙)

電信課長

主管 東亞局長

主任 第一課長

發電係

25 22

本田

電送第 9386 號

昭和 12.6.25 日 午後 2時20分發

暗

宛 浦潮 杉下總領事

發 広田大臣

名件 ソ聯邦浮ドックノ浦潮向廻航ニ関スル件

記錄 各國船渠並造船業 件名 傷雜件

第 九三 號 (極秘)

昭和十二年六月廿五日起草

香港發本大臣宛電報第八五號(要旨)

(以下本文別紙)

右ノ通リ電報ス

電信案

外務省

S 61401 165 記

F-0058

0171

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和12　一二一二七　暗　香港　廿六日後發　歐
本省　六月廿六日後着

廣田外務大臣

第八六號

本官發上海宛電報

第一九號

往電第一八號ニ關シ

蘇聯浮「ドック」囘航隊ハ昨二十五日午後七時當地拔錨浦潮ヘ向ヘリ曳航時速約六哩半七月末到着ノ豫定ニテ途中或ハ大連ニ寄港スヘキコトアル由

尚運送船「セルゲイキロフ」號ハ荷卸（銑鐵）ノ爲神戸ニモ寄港ス

外務省

S 61401 166

ヘシ昨日同船ヨリノ屆出ニ依リ當館ニ於テ船舶健全證明書ニ裏書證明ヲ與ヘ置ケリ（了）

（轉電先脫）

外務省

S 61401 167

F-0058

0172

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	2	3	5
附 甲	2	3	8
附 乙			
附 丙			
屬 丁			
備考	(分類/門/類/項/目)		

要綴 部

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年七月壹日 發送濟 浄書

主管 歐亞局長 主任 第一課

歐一 機密 普通 合第二九二九號 昭和拾貳年七月壹日 日附 附屬

受信 海軍省豐田軍務局長

名人 軍令部野村第三部長

件名 ビ聯邦造船計畫ニ関スル件

本件ニ關シ今般在オデッサ平田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先 海軍省、軍令部

(昭和十二年五月六日附在オデッサ領事館來電(往)機密普第八四號寫並附屬書寫)

公信案

名件錄記 各部長

名人信發 東郷歐亞局長

昭和十二年六月三十日起草

校(原稿) (浄書)

別紙

外務省

S 61401 168 1 11

	發信用	執務用	
主信	2	1	3
附 甲	2	1	3
附 乙			
附 丙			
屬 丁			
備考	(分類/門/類/項/目)		

要綴 部

通商局

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年七月五日 發送濟 浄書

主管 歐亞局長 主任 第一課長

歐一 機密 普通 合第二九七二號 昭和拾貳年七月參日 日附 附屬

受信 海軍省豐田軍務局長

名人 逓信省小野管船局長

件名 ペ、港船舶修理工場ニ関スル件

本件ニ關シ今般在ペトロパウロスク柳領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先 海軍省軍務局長、逓信省管船局長

(昭和十二年六月十五日附在ペトロパウロスク館來電(往)機密普第七號寫並附屬書寫)

公信案

名件錄記 各部長

名人信發 東郷歐亞局長

昭和十二年六月三十日起草

校(原稿) (浄書)

別紙

外務省

S 61401 169 3 33

F-0058

0173

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

寫送先

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

昭和12 一三三二八 暗 浦潮 十日後發
本省 七月十日夜着 歐

廣田外務大臣

第二五五號

十日當地機關紙ノ報スル所ニ依レハ「オデツサ」ヨリノ浮船渠ハ「ソフガワニ」ニ直航十日朝同地ニ到着スヘク曳船「トロス」及「タイフン」號ノミ十五日浦潮ニ來ル豫定ナリト云フ

蘇ヘ轉電セリ

外務省

S 61401 170

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年七月拾三日發送濟

主管 歐亞局長

歐一普通 合第三一三〇號 昭和拾貳年七月拾貳日 附

主任 第一課長 昭和十二年七月十二日起草

浄書 校(原稿) 正(浄書)

受信人 陸軍省 軍務局長 後宮
參謀本部 第二部長 渡
海軍省 軍務局長 豊田
軍令部 第三部長 野村

発信人名 東郷 歐亞局長

件名 ソ聯邦ニ於ケル大浮船渠建造南洋ニ廻スル件

本件ニ關シ今般在オデツサ千田領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸海軍省 參謀本部 軍令部

(昭和十二年六月十四日附在オデツサ領事館來(往)電 普通第一〇九號寫並附屬書類)

公信案

外務省

S 61401 171

	發信用	執務用	
主信	4	2	6
附 甲	4	2	6
乙			
丙			
屬 丁			

備考 (分類 門 領 項 目)

79 懸案

要寫二部

別紙

12 112

F-0058

0174

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和12 一四八一九 暗 浦潮 十九日後發 歐
本省 七月十九日夜着

廣田外務大臣

第二六六號

電第二五五號ニ關シ

曳航船「トロス」及「タイフン」號ハ十九日午後四時當地ニ到着セリ

蘇ヘ轉電セリ

杉下總領事

外務省

件名 參考 船渠並曳船業ニ關スル件

S 61401 172

井上參事官
歐亞局長
歐亞局

機密公第二三八號

昭和十二年七月二十六日

在香港
總領事代理 岡本久吉

外務大臣 廣田弘毅殿

蘇聯浮船渠回航ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月下旬不取敢電報ヲ以テ報告ノ次第有之處今般之カ回航ノ目的經路所屬各船舶ノ噸數及性能等ニ關シ別紙當館據影ニ係ル寫眞九葉添附茲ニ追報スルニ付御査閲相成度シ

一、浮船渠回航ノ目的及經路

在香港日本總領事館

昭和十二年八月拾日 接受

東亞局

第三課

類別 門 類別 項目 3

S 61401 173

F-0058

0175

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本浮船渠ハ蘇聯邦海軍部カ極東方面ニ於ケル小型艦船潜水艇及漁船等ノ修理ニ充ツル爲從前黑海ニ在リタルモノヲ浦鹽ヘ移サントスルモノニシテ本年四月八日運送船一隻護衛ノ下ニ曳船兩隻ニ牽引セシメ「オデツサ」ヲ出發「スエズ」運河ヲ經テ「アレキサンドリア」「アデン」「コロンボ」新嘉坡等各港ニ立寄リ長程七〇一九浬ヲ走破シ六月二十二日當地ニ入港セリ一行ハ炭水食糧補給並ニ乘員休養ノ爲四日間假泊シタル後二十六日朝再ヒ當地拔錨約六浬半時ノ速力ヲ以テ浦鹽ヘ向ヘルカ途中場合ニ依リテハ大連ヘ寄港スヘキコトアル外大體直航ノ方針ニテ七月末到着ノ豫定ナル趣ナリ

三、浮船渠及同航隊所屬船舶ノ噸數並ニ性能

在香港日本總領事館

浮船渠

名稱　"PLAV DOK 1050" 號

總噸數　約五〇〇〇噸

建造地　黑海「ニコライエフ」島

乘組員　指揮官「ボラブ」以下二六名

形狀　長サ約一〇〇米幅約二五米（左右兩壁ノ厚サ各約三米ヲ含ム）高サ約二〇米（吃水約三米ヲ含ム）ノ箱形ニシテ內部ハ吃水線以上空洞トナリ前後兩壁ハ取外シ自由左右兩壁ノ內部ニハ機關、發電、作業、通信、炊事及從業員居室等十數室ヲ設ケ尙起重機一、夜間作業用探照燈八個等ヲ有ス

在香港日本總領事館

F-0058

0176

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

運送船

名稱　"SERGEI KIROV" 號

總噸數　二三六四噸

船籍地　浦鹽斯德

乘組員　船長「ユースベンスキー」以下約二〇〇名

任務　同航隊員ノ糧食、燃料及曳航用諸材料ヲ搭載シ併セテ護衛ノ任務ヲ兼ヌ尙右ノ外日本向銑鐵約三〇〇〇噸ヲ積載シ居リ荷却ノ爲一行ニ先ンシ二十五日夕當地出帆神戸經由浦鹽ヘ向フコトトナリ當館ニ對シ船舶健全證書ノ發給方屆出アリタリ

曳船

在香港日本總領事館

B

A 名稱　"TOROS" 號

總噸數　約八〇〇噸

乘組員　一六五名

任務　專ラ浮船渠曳航ノ任ニ當リ浦鹽到着後モ曳船トシテ使用セラルル筈

B 名稱　"Typhoon" 號

總噸數　約一〇〇噸

乘組員　約二〇名

任務　前記「TOROS」號ノ補助トシテ浮船渠曳航作業ニ當レルカ將來浦鹽方面ニ於テ碎氷船トシテ使用セラルヘキ豫定

在香港日本總領事館

B

F-0058

0177

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

因ニ當地支那紙ハ本回航除ノ壯擧ニ對シ賞讃ノ辭ヲ與ヘ尙浦鹽港ニ於テハ目下船渠湾底ノ折柄ニ付蘇聯政府ヘ更ニ兩三隻ノ浮船渠回航方計畫中ナル旨ヲ報シ居レリ

本信寫送付先　在英、在華、在蘇、在滿各大使　上海　浦鹽

北平　新嘉坡　廣東

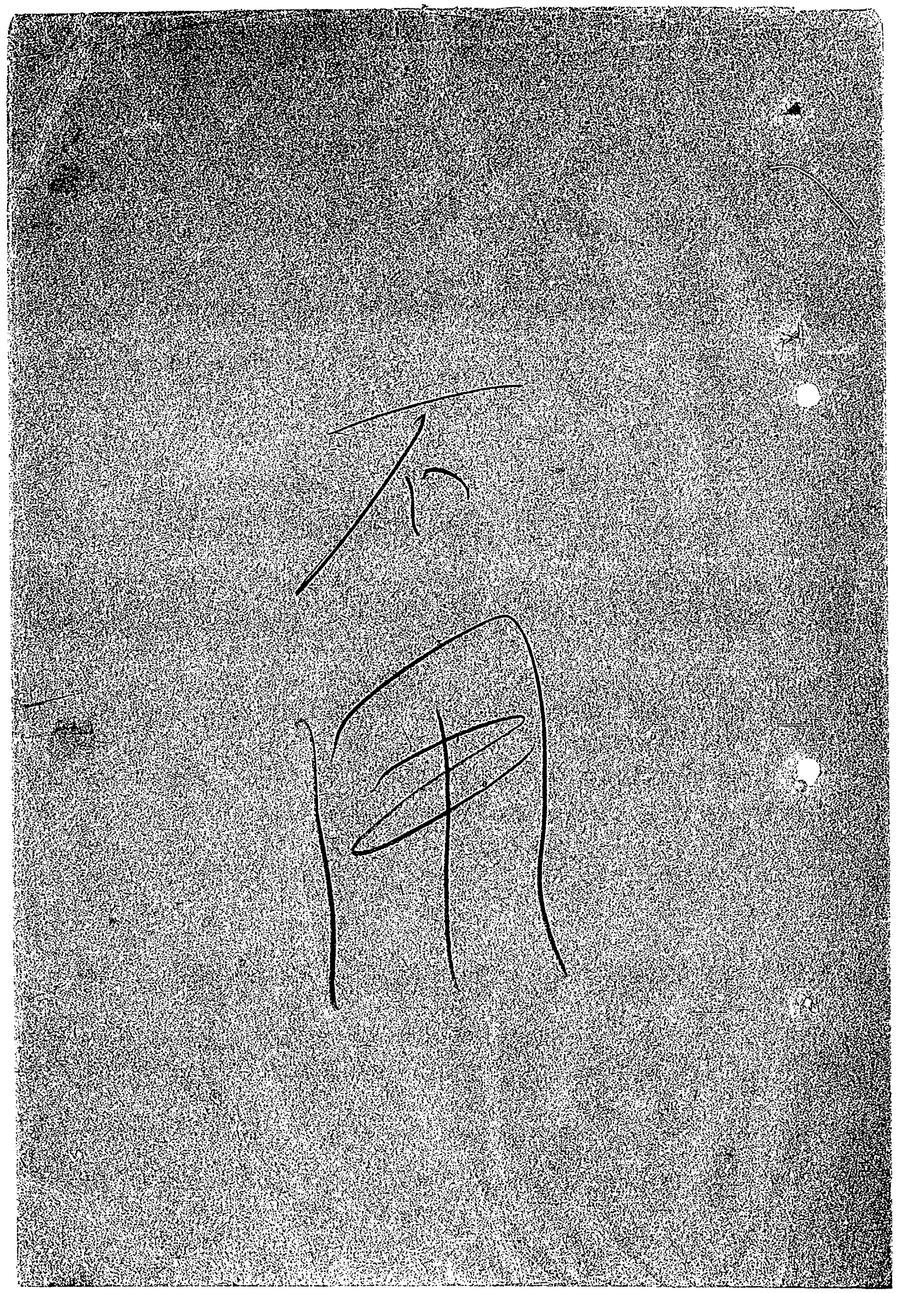
在香港日本總領事館

S 61401 178

F-0058

0178

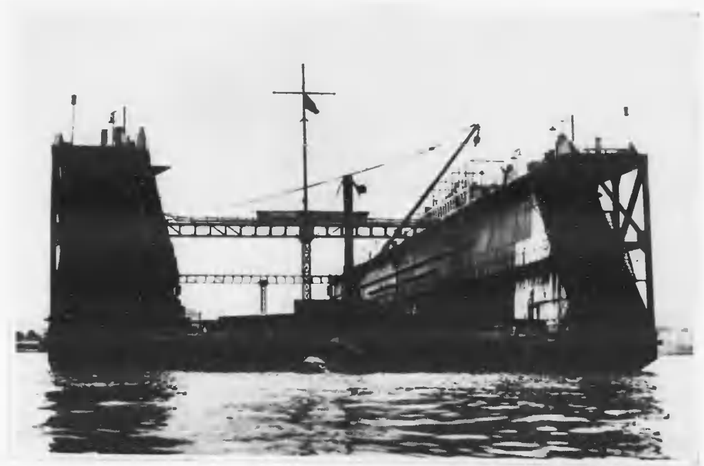
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



F-0058

0179

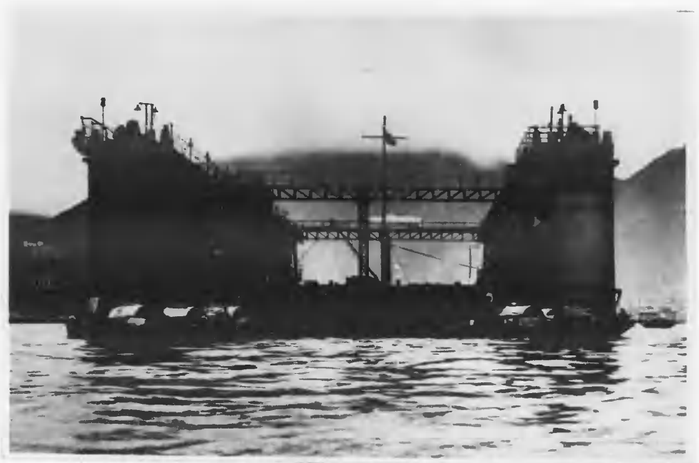
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



F-0058

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

浮船渠前部



F-0058

0181

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F-0058

0182

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

浮船渠後部

F-0058

0183

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F-0058

0184

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

浸船渠内部

F-0058

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

沒船渠内部

F-0058

0186

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F-0058

0187

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

東鉄「トロスレ」号

F-0058

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

運送取ったんケイキセフ」ぞう

F-0058

0189

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	1	1	2
附 甲			
乙			
丙			
屬 丁			
備考			

文書課長

文書課發送 昭和拾貳年八月拾四日發送濟 昭和拾貳年八月拾日送濟

主管 歐亞局長 欧一 機密 第三〇三號 昭和拾貳年八月拾四日

主任 第一課長

昭和十二年八月十二日起草

浄書 正校（原稿）

別紙 附屬物同封

受信人名 海軍省 豊田軍務局長

名件 蘇聯浮船渠回航ニ関スル件

本件ニ関シ今般在香港岡本總領事代理ヨリ報告アリタルニ付

仝公信写一部（附傷写真九葉共）茲許送付ス

（別添七月二十六日附在香港總領事発来信機密第二三八号写ニ傷写真二葉共）

公信案 浮ドック

名件録記 各國船渠並造船業ニ関スル件

発信人名 東郷欧亜局長

附屬 有

外務省

S 61401 179 13 97

寫送先

大臣 次官 東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調査 人事 文書 會計 祕書官

電信課長

（合類ナレバ其ノ頁ヲ記ス 3）

昭和12 一九五七四 暗 浦潮 廿日後發 本省 八月廿日夜着 歐

廣田外務大臣

第三二八號

往電第二六六號ニ關シ

「トロス」及「タイフン」ハ十六日午前十時當地ヲ出港セルカ右ハ再ヒ浮「ドック」曳航ノ爲「オデツサ」ニ向ヒタルモノニアラスヤト考ヘラル（了）

件名 蘇聯浮船渠並造船業ニ関スル件

外務省

S 61401 180

F-0058

0190

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部

歐亞局

公第一四五號

昭和十二年八月三十日

在オデッサ
領事 平田 毅

外務大臣 廣田弘毅 殿

浮船渠曳航長歸還ニ關スル件

本件ニ關シ八月二十八日附當市機關紙ハ左ノ通リノ記事ヲ掲ケタリ

「「オデッサ」ヨリ浮船渠ヲ浦潮斯德ニ曳航セル船長「ゴールブ」氏ハ當市ニ歸還セリ同氏ノ談ニ依ルニ「オデッサ」浦潮斯德付九十二日ヲ費シ曳航セル浮船渠ハ目的地ニ完全ナル狀態ニテ到着セリ曳航中ハ難航ニ遭遇セルモ百二十七名ノ乘組員ノ模範的操作ニ依リ無事其目的ヲ達シ得タリ兩曳航船「タイフーン」及「トロ「ヌ」」ハ浦潮斯德ニ於テ小修理ノ上八月十六日出發印度洋經由「オデッサ」ニ歸航ノ途ニ就キタル筈ナリ今回ノ航行日數ハ五十五日乃至六十日ナリ」云々

右御參考迄報告ス

在オデッサ日本領事館

在オデッサ日本領事館

高一部三八送附
各支船渠並浮船渠ニ係ル件
昭和十二年九月廿貳日接受

F-0058
0191
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

情報部

(分類 類万門 類 項 目 3)

電信案

外務省

電送第 22507 22509 號

昭和 年2月25日 午後 5時 分 発

宛 在浦潮杉下總領事 在香港水野總領事 在新嘉坡

発 廣田大臣

件名 ウラジオストク浮船渠用船

記名件 蘇船渠並造船業関係雑件

合第 七三二 號 ( )

蘇發本大臣宛

昭和九年九月二十日

(全文別電ノ通)

但轉電后電受先ノ起ノ日時ヲ明ニス

主管 歐亞局長

主任 第一課長

電信課長

発電係

昭和十年九月廿七日起草

25 56

歐亞局 第一課

普通第二一〇号

昭和十二年九月二十八日

在浦潮斯德

總領事 杉下裕次郎

外務大臣 廣田弘毅 殿

堪察加「ペトロパウロフスク」造船所ニ關スル件

二十八日附當地機關紙ノ報スル所ニ依レハ堪察加「ペトロパウロフスク」造船所ノ第一期工事ハ既ニ竣工シ機械工場、鍛冶工場及鑄物工場ハ夫々就業シ居ル趣ナルト共ニ同所ニ於ケル一九三八年度計畫ニハ巾着網船二隻、發動機艇二隻、荷足リ船二隻ノ新造並ニ汽船一隻ノ改造等含マレ居レリト云フ

黒海「ニコラエフ」ヨリ本年中ニ同地ヘ浮船渠廻航セラルヘシトノ情報トモ關聯シ右御參考ノ爲メ報告ス

本信寫送付先 在蘇大使

在浦潮日本帝國總領事館

第一部 (送附濟)

寫一部調三 (送附濟)

昭和三年 合 第 号

F-0058

0192

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	6	1	7
附 甲	6	1	7
附 乙			
附 丙			
附 丁			
備考	通商門／類4	類0	3

要案 部

文書課長

文書課發送昭和拾貳年拾月廿八日發送濟

主管 歐亞局長

機密 歐一 普通 合第四七二四號

昭和拾貳年拾月廿八日

主任 第一課

昭和十二年十月廿八日起草

浄書 正校（原稿）

別紙

受信人名 農林省水産局長 逓信省管船局長 陸軍省軍務局長 海軍省軍務局長 陸軍参謀本部第二部長 陸軍軍令部第三部長

各通

名件 堪察加ペトロパウロフスク造船所ニ関スル件

本件ニ關シ今般在浦塩杉下船員ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御参考右茲ニ送付ス

本信送付先 農林省水産局長、逓信省管船局長、陸軍省軍務局長、海軍省軍務局長、陸軍参謀本部第二部長、陸軍軍令部第三部長

（昭和十二年九月二十八日附在浦塩館來第二四五號寫並附屬書類）

公信案

名件錄記 各国船渠並造船業要件

名人信發 欧亜局長

外務省

F/4-0-3

歐亞局 第一課

公普通第三四三號

昭和十二年十一月十日

在「ソヴイエト」聯邦

特命全權大使 電 光

外務大臣 廣田弘毅殿

「ソ」聯浮船渠建造ニ關スル件

十月十七日「レニングラードスカヤ、プラウダ」紙ハ在「レニングラード」商港「カノネールスキー」船舶修繕工場鐵筋「コンクリート」浮渠ノ寫眞ヲ掲ケ超エテ二十二日同紙ハ豫テ「レニングラード」商港ニ於テ建造中ノ鐵筋「コンクリート」浮渠此ノ程竣工シ來ル

F-0058
0193
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十一月七日ノ革命第二十周年記念日迄ニ進水ノ豫定ニテ同浮渠ハ長サ一三〇米幅サ三〇、五米艤装後ハ「カノネールスキー」船舶修繕工場ニ配置セラルヘキ旨報シ居レルニ付右寫眞相添ヘ茲ニ報告申進ス

（赤枠紙）

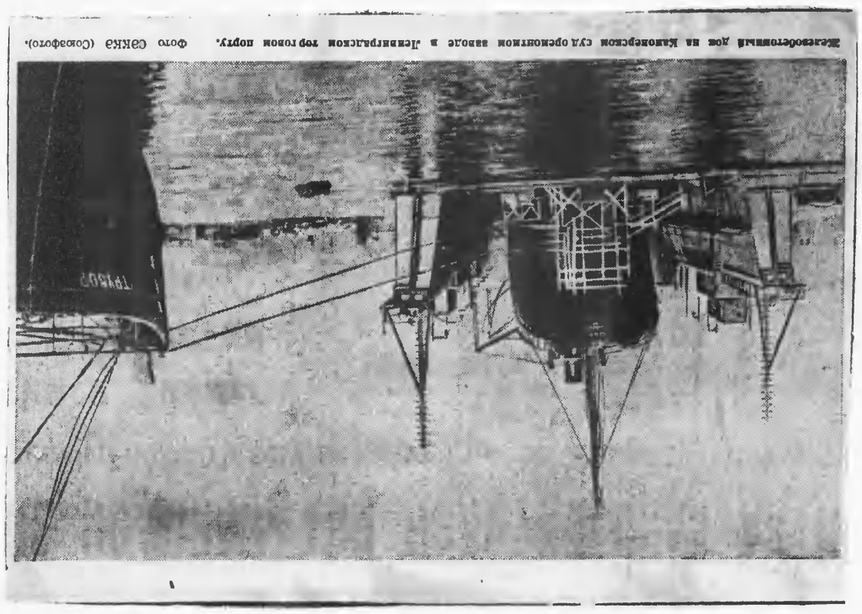
S 61401 187

F-0058

0194

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F-0058



Железобетонный док на Камчатке СУА операциями вблизи в Петропавловске топлива порту. Фото Сокабото (Сокабото).

旧日本軍基地
プレハブ・トンネル、プラ、ジャ
ポ、

S 61401 138

0195 5.3

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部
通

欧亜局

機密第一三三号

昭和十二年十二月二十日

在浦潮総領事　七田嘉吉

外務大臣　廣田弘毅殿

船舶修理ニ関スル警告論説報ノ件

本月十八日附富士機関紙ニ掲載セラレタル「イ、ウユルガーノフ」ナルモノ〃写全ニ依ル一船舶修理ノ開始ニ當ツテノ停頓ハ重大ナル危険信号ナリ」ト題スル論説ハ當地極東海洋船舶部所管船舶修理工場内ニ於ケル船舶修理ノ実際ニ関シ其ノ誤缺陥ヲ指摘シテ警告セルモノニシテ一方ニ於テ船舶部幹部「船舶部長ーフユトートフ」工務課長ーホミヤコフ」等ノ船舶修理計畫ニ関スル無秩序、怠慢ヲ批難スルト共ニ他方修理工場内ニ醸サレツヽアル無氣力、入

昭和三年壱月六日　接受
査調 13.1. 592 B
欧亜 13.1.07 一課

勢鼎沸氣分ヲ指摘シ現下ノ重大危機命ハ修理ノ量的量的向上ト原價低減トニ在ルニ不拘事實ハ寧ロ反對ニシテ益々「コスト」ノ昇騰ヲ来スガ如ク思ハルヽ特記シ之カ改善ヲ希望シ居ルキノナルカ記者カ頻リニ指導者ニ對スル批難攻撃ヲ為シ上ツ後進勞働者ノ扱擢、抜進ニ關スル不滿ノ聲ヲ漏ラシ居レル點ニ鑑ミ聽テハ例ニ依テ幹部ニ對スル厳正工作ニ迄發展スルキノニアラスヤト思量セラレ當地方ノ空氣ノ一端ヲ窺知シ得ルキノト思考セラルヽ件本論説要譯ノ上報告申進ス

本信写送付先　在満帝国大使

F-0058
0196
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

船舶修理ノ狀況ニ當ツテノ傳聞ハ重大ナル危險信號ラアル

極東海洋船舶部ノ船舶修理工場ハ冬季春迄ノ期間ニ於テ二十隻ノ船舶ニ對シ大、中、小ノ修理ヲ行ヒ且之ト並ンテ港内在泊船舶ノ修理モ爲サネハナラヌ而シテ迅速ニ任務ニ且ツ廉價ニ本修理ヲ行フコトハ修理従業員ノ全著ラル傾向テアルニ拘ハラス幹部ハ且ツテ怠慢テアツテ種々ノ醜体ヲ暴露シテ居ル即チ重要時期ニ當ツテ浦潮船舶修理工場ハ幹部級ノ定員ニ缺員ヲ有シテ居ル有様テ老年ノ技師「ルシコ」カ一人テ所長、技師長、計畫實施部長ヲ兼任シテ居ル（船舶部長「フユトートフ」工務課長「ホミヤコフ」等ハ徒ニ手ヲ拱イテ人手ノ缺乏ヲ嘆シテヰル許リテ有能ナル新人ノ考査拔擢ニ依テハ何人モ眞面目ナル考慮ヲ拂ハナイテ只中央ヨリノ派遣ニ希望ヲ掛ケテ居ル狀態テアル）

工場ハ十一月ニ於テ既ニ計畫的修理ニ着手セネハナラヌ筈テアツタカ船舶部工務課ノ幹部ハ再ヒ昨年ノ過誤ヲ繰返シテ無計畫ナ狀

S 61401 191

態ニ在ル十一月中旬ニ計畫編成員「フリユメンクラッツ」ハ今計畫書ヲ提出シテモ無意味ダ、十二月ニナッタラ工場ヘ提出ス」ト言ヒ工務課長「ホミヤコフ」ト共ニ十二月ノ計畫書ヲ約束シタ

然シ之ハ計畫書テハナクテ單ナル羅列ニ過キナイ例ヘハ十二月一日ヨリ「トウルクメン」號ノ修理ヲ開始スル豫定テアッタ四日後「ト」號ハ修理ニ廻サレ「ポンプ」船艙等ノ修理カ始ッタトコロカ急ニ「フユドートフ」及「ホミヤコフ」ヨリ「修理作業ヲ中止セヨ船ハ就航スル」ト言フ指令カ來タ「ト」號ハ就航準備ヲ急シ「ポンプ」ニハ急遽應急修理カ加ヘラレタ然ルニ船舶部ヨリ更ニ「「ト」號ノ航海ハ取止メタカラ修理ニ殘スヘシ」ト言フ指令カ飛ンテ來タ遺憾乍ラ之ハ船舶部ノ無秩序ナル唯一ノ事實テハナイ船舶部ノ修理計畫ニ依レハ「バロフスク」號ノ修理ハ十二月二十八日ヨリ開始スヘキ筈トナッテ居ルカ船ハ十二月十三日臨修理ニ廻サレタ而シテ過熱損傷部分ノ切斷作業カ始メラレタトコロカ工務課ヨリ「作業中止、船ハ就航スル」ト言フ指令カ來タ

S 61401 192

F-0058
0197
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

然シ指令カ遅レテ遂ニ損傷部分カ賊ニ切取ラレテ居タ爲メ修理ニ殘サレルコト、ナツタ

工務課技師長「ミローノフ」、船舶修理技師長「ホドリヤク」ハ修理要求書適時提出ニ關スル水路人民委員部ノ指令ニ違反シテ修理作業ノ秩序ヲ卒先破壞シテ居ル周知ノ如ク中位修理ノ要アル船舶ハ修理ニ先ツコト二ヶ月前ニ修理要求書ヲ出サネハナラヌコト、ナツテ居ル然ルニ兩人ハ右ニ特別ノ見解ヲ有スル樣ダ例之「トルクメン」號ノ修理要求書ノ如キ同船ノ入渠後十六日經過シテカラ工場ニ廻付セラレテヰル又「ハバレンスク」號モ修理要求書ヲ待ツ爲數日間督促サレテ居タ

一月ニ修理スヘキ船舶ニ對スル修理要求書ハ工務課トシテ今ノ中ニ工場ニ廻スヘキテアルノニ工場ニハ未タ一ノ修理要求書モ廻ツテ來テ居ナイ最モ悪イコトハ「ミローノフ」及「ホドリヤク」カ此種修理要求書提出遅延ノ許スヘカラサル形態ヲ改善スヘク努力セスシテ却而之ヲ几帳面ニ行フ可能性カナイノタト頑強ニ主張シテ

S 61401 193

居ルコトテアル

船舶部幹部ノ無能力振リノ指導宜シキヲ得サルコトカ工場ノ作業ニ對シ悪影響テアル話スナイ管ラ「ホミヤコフ」其他ノ技師達ハ工場作業ノ不圓滑カ判ラナイモノノ樣テアルソシテ工場モ之ヲ改メ樣トハセスニ之ニ順應シテ終ツテヰル有樣タ例之鍛接工ハ酸素管カ來ナイト來ヌ理由テ十日間モ休業シテ居リ鎔接工モ酸素カナイト言ツテ休業シテ居ルカ酸素管ハ船舶部倉庫内ニ放置サレテ居ルノテアル

工場ノ器具類ハ放任セラレテ極メテ悲慘ナ狀態ニ在ル工場ニ於テハ熟練セル器具係養成ニ意ヲ用ヒテ居ナイカラ器具係長「スコベーノク」ハ極メテ困難ヲ嘗メテ居ル螺鑽、螺錐、其他「スパナ」類ノ器具ハ容易ニ製作出來ル筈テアルカ今日迄ノ處此等ノ器具ハ倉庫ニナイ夫ノミテナク之ヲ製作スヘキ熟練工モ材料モナイノテアル複雜ナ器具ハ工場テハ作レナイカ右ハ市内ノ製作場へ注文スルコトモ出來ル然ルニ鍛接工ハ「バーナー」及切斷器カ破

S 61401 194

F-0058
0198
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

損シテ居ルト言フ理由デ數十時間モ休業シテ居ル有様デアル

工場内諸職場ノ當面シテ居ル課題ハ量ノ問題ト並行シテ質的ニ仕事ノ向上ヲ計ルト共ニ其ノ且原價低減ニ適進スルコトニアルカ船船部ニ於テモ原價低減ニ關スル運動ハ行ハレテ居ナイ碎氷船「カザク」、ボヤルコフ」號ノ船首錨索孔カ五度モ鑄出サレタカ其ノ都度失敗シ又「アムール」號ノ主要機關部ノ「ピストン」カ三度モ鑄出サレ四度目ニ至ツテ不良品ノ「ピストン」カ船ニ取リ付ケラレタ

幹部ハ之等ノ失敗原因ニ關心ヲ有セス鑄物工場ハ最近拔擢サレタ「スタハーノフ」運動者「ボリソフ」カ指導ニ當ツテ居ルカ誰モ彼ヲ助ケテ居ナイ失敗ハ鑄物工場ノミテハナイ機械工場モ夫ニ劣ツテハ居ナイ「アムール」號ノ「ダイナモ」修繕ニ五日カヽツタカ三度モ各部分ノ遺リナホシカ行ハレタ又同船テ「マシヤコーウイ」「ルイマリ」等ノ修繕シタ「ウインチ」引渡ニ際シ八日間モカヽツテ遺リナホシカ行ハレタ

此種多數ノ不合格品又ハ失敗ハ其都度綿密ニ考究サレテハヲルカ後査工「ゴンシヤルク」カ如何ニ几帳面ニ調書ヲ作成シテモ工場ヤ船舶部ノ幹部ノ書類綴ニ保管サレル丈ケテハ何モナラナイノテ實際ニ於テ船舶修理ノ原價ハ益々昂騰シテヰルテハナイカ試ミニ見ヨ「アムール」號ノ修理期間ハトウニ終了シ且十三萬留ノ豫定ノ修理費ハ今ヤ二十萬留ノ突破シテ居ルテハナイカ

船舶修理開始期ニ於ケル大ナル停滯ハ船舶部及工場幹部ニ對スル重大ナ危險信號テアラネハナラヌ然ルニ彼等カ之ヲ默過セントシツヽアルコトハ實ニ寒心スヘキコトテアル工務課ノ幹部ハ船舶修理ニ對スル計畫編成、技術的運程ヲ愼重ニ調査スル代リニ工場勞務者トノ間ニ之等言語道斷ナル停頓ノ責任者ハ誰テアルカニ付猛烈ニ言ヒ爭ツテ居ル有様タ

船舶修理計畫失敗ノ責任者ハ先ツ第一ニ工務課及工場幹部テアル彼等ハ期限、品質及原價低減ニ對シ全力ヲ注クヘキテアル（了）

F-0058

0199

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部

在ソヴィエト聯邦日本帝國大使館

分類F門1類4項0目3

欧亜局 第一課

昭和三年壁月拾四日接之

欧亜 13.1.1 一課

普通第三八一號

昭和十二年十二月二十一日

在ソ聯邦

特命全權大使　重光　葵

外務大臣　廣田弘毅殿

大鉄筋「コンクリート」浮船渠建造ニ関スル件

十二月十六日ノ「ヴェチエルナヤ、モスクワ」ノ記事ニ依レバ「レーニングラード」港ニ於テ世界最大ノ鉄筋「コンクリート」浮船渠建造中ニシテ今ヤ其ノ基礎作用ヲ終リ一九三八年五月十五日迄ニ全部ノ装備ヲ完了スル筈ナリ　本渠船ノ長サハ約一三〇米幅三〇米高サ五階建家屋ニ等シク「ソ」聯邦最大ノ汽船ノ

在ソヴィエト聯邦日本帝國大使館

大修理ヲモ引受クルコトヲ得又乾下作業ハ四十五分ニシテ行ヒ排水作業モ右ト仝様ニ急速ニ行フコトヲ得本渠船建造ハ全部蘇聯邦産材料ヲ使用スルト共ニ「リヴィエト」技師ノ設計ニ係ルモノナリ

F-0058
0200
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

通
調査部

機密第 号

昭和十三年一月五日

在浦潮斯德
總領事 七田基玄

外務大臣 廣田弘毅殿

浦潮ニ於ケル船舶修理業績ノ不振ニ關スル新聞記事譯報ノ件

極東地方ニ於ケル海洋船舶ノ修理工場ハ漁業用小型船舶ノ修理工場ヲ除ケハ現在迄ノトコロ殆ント總テカ浦潮ニ集中セラレ居リタルモノニシテ（將來ハ黑海方面ヨリ回航セラレタル浮「ドック」ノ配置等ヨリ見テ「ソヴガーワニ」「ペトロパヴロフスク」等ニモ航洋船舶ノ修理工場カ設ケラルヽモノト見ルヲ得ヘシ）現在浦潮ニ存スル數ケノ船舶修理工場ハ其ノ所屬ニ從ヒ(一)極東國營海洋商船隊(二)漁業機關及(三)北氷洋航路管理局ノ所屬工場ニ分類スルヲ

在浦潮日本帝國總領事館

昭和三年五月拾日接受
歐亞 13.1.14 一課

得可キカ如キ處其ノ何レモノ工場カ十月乃至四月ニ亘ル冬期カ最モ繁忙期ニシテ商船隊所屬ノ航洋汽船ハ素ヨリ漁業用船舶例ヘハ蟹工船、捕鯨船乃至獨航船等ニ至ル迄此ノ機會ニ必要ノ修理ヲ加ヘラルヽモノナルヲ以テ此等船舶ノ歸港ニ伴ヒ當地方新聞ハ例年其ノ重大ナル關心ヲ此等船舶ノ修理事業ニ拂ヒ必要ノ鞭撻ヲ行ヒ來レル處昨秋以來此ノ例年ノ關心ハ再ヒ新聞紙上ニ散見シ或ハ修理工場ノ無秩序ヲ指摘シ或ハ其ノ資金運用問題ヲ論シ居リ其ノ事要ナルモノニ付テハ屢次報告ニ及ヒ置キタル次第ナリ

然ルニ本月四日ノ機關紙ハ當港ニ於ケル碎氷事業ノ澁滯ヲ指摘シ之カ原因ヲ商船隊及港務局ノ措置機宜ニ適セサル爲ナリトテ之ヲ非難セル別紙甲號譯文ノ如キ寄稿文ト共ニ昨年來當地ニ派遣セラレ居リタル水路人民委員部特派員ノ海洋商船隊建直ニ關スル實績ヲ詳述シテ右特派員カ客年中國民ノ敵カ毒汚染セル商船隊ノ健全化ニ付何等實效ヲ收メ居ラサルハ彼等カ右國民ノ敵ノ與ヘタル影響ヨリ商船隊ヲ脫却セシム可ク充分ノ活動ヲ爲サ

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0201
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

サルノミナラス寧ロ彼等ノ轍ヲ踏ミ商船隊活動ノ不動ノ原則タル「計畫表」確立ノ代リニ自ラ之ヲ蹂躙スルノ愚ヲ爲シツヽアルカ故ナル旨ヲ諭セル別紙乙號譯文ノ如キ記事ヲ掲載シタル處右ハ過般來徹底的ニ實施セラレタル當地ノ肅情工作カ如何ナル影響ヲ與ヘツヽアルカヲ窺知セシムルモノアルヲ以テ御參考迄右譯報ス

本信寫送付先　在蘇聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

別紙甲號

碎氷作業ノ充實問題

（一九三八年一月四日赤旗紙　アンガヰロフ）

碎氷期ノ到來ト共ニ浦浦商港ノ特種船舶「ドーブルイニヤ、ニキーテイチ」「ダウイドフ」「カザク、パヤルコフ」及「バガトイリ」等ハ既ニ碎氷作業ヲ開始セネハナラナイ筈テアル

然ルニ碎氷作業開始期カ少ク見積ツテモ半月前ニ到來シテヰルノニ此ノ特種船隊ハ全体トシテ未タ冬期ニ於ケル作業ノ爲メノ準備カ出來テ居ラナイ只最近ニ至ツテ唯一ツ碎氷船「ドーブルイニヤ、ニキーテイチ」カ就航シタ許リタ他ノ船ハ未タ修理中ニ屬スル港務部及商船隊ニ於テ永年維持サレテヰル無益ナ傳統ノ結果夏秋ノ今期間無爲ニ繫船セラレテヰルニ不拘碎氷船ノ修理ヲ急カス必要ノ時ニナツテ役ニ立タナイコトニナルノタ現ニ岸壁附近ニ於ケル碎氷事業ハ行ハレテヰナイ「ドーブルイニヤ、ニキーテイチ」號ハ航路碎氷ニ從事シテ港内ノ作業ニハ手カ廻ラナイ船舶ハ岸

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0202
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

壁附近及沖懸リヲ為シツヽ必要ナル岸壁ヘノ繋船ヲ待ツテヰル有様タ斯ウシタ重大ナ時期ニモ不拘商船隊長「フヨードトフ」モ港務局長「ボリソフ」モ案外平氣テ居ル

而シテ砕氷船ノ修理状況ハ何ウカト言フニ砕氷船「ダウイドフ」號ハ最近中ニ修理完了シ就航シ得ヘシトノ工場指導者ノ一再ナラサル約束ニ不拘未タニ入渠中テアリ「カザク、パヤルコフ」號ヤ「バガトイリ」號ニ至ツテハ尚不良テ「バガトイリ」號ノ如キハ約一年近ク修理中テアルカ一向進捗シナイ商船隊及港務局ノ指導者カ右「バ」號ヲ基礎的修理ニ廻ハスノカ著シク遲レタ為同號ノ修理完成ハ五月頃即チ氷ノ全然無イ時分トナロウ「カザク、パヤルコフ」ノ修理モ中絶シツヽ行ハレ一体ナラ既ニ就航セネハナラナイ時期ニナツテ約一ケ月前カラ修理カ行ハレテヰル右結果勢ヒ急クノテ修理ノ出來モ不良トナリ甲板ノ如キ修理後更ニ二回ノ補足工事ヲシタノニ未タ漏水スル状態タ其外汽鑵ノ修理ニシテモ商船隊所屬船舶修理工場ノ鑄造工場ニ於ケル鑄造作業不良ノ為十回モ不

S 61401

合格品ヲ出シテヰル

右ノ如キ事態ハ港務局及商船隊ノ幹部ノ注意ヲ喚起スルニ充分ナリト思ハレルノタカ港務局長代理「マースロフ」ノ如キ平然トシテ「間モナク「ダウイドフ」號モ船渠カラ出ルシ左スレハ其後ニ「カザクパヤルコフ」號ヲ入渠サセルコトカ出來ル、少シ無理ハアロウカ何トカ出來ルタロウト思フ」ト斷言シテヰル

「此ノ何ウニカ出來ルタロウ」ト言フ仕事ノ仕方カ「ドーブルーニヤ、ニキーテイチ」ヲ往々曳船ニ代用シ本來ノ曳船カ右「ド」號カ其本來ノ使命タル港内ニ於ケル氷ノ始末ヲ付ケサルカ為ニ空シク拱手シテ居ラネハナラヌ仕儀トナツテ現ハレルノタ加之此ノ砕氷船ヲ曳船ニ代用スル惡習ハ此ノ目的ノ為ニ特別ノ装置ヲ有スル曳船「コロメーエツ」及「カンガーウノス」兩號ヲ修繕モセス放置スルノ結果ヲ來シテヰルノタ

港務局ハ現在充分ノ數量ノ砕氷船隊ト曳船トヲ有スル要ハ之等ヲ就航可能ノ状態ニ導ケハ良イ、若シ船舶ノ利用ヲ正當ニシ商船隊

S 61401

F-0058
0203
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

及港務局ノ指導精神カアレハ容易ニ出來ル問題ナリタ

在浦潮日本帝國總領事館

別紙乙號

單ナル記錄係ニ過キサル水路部派遣員

（一九三八年一月四日附赤旗紙「リピンスキー」）

極東國營海洋商船隊ハ其年度輸送課題ヲ完了シ得ナカツタ而シテ其ノ根本原因ハ商船隊各部局カ客年中數ケ月ニ亘ツテ內敵ノ行爲ニ毒サレテキタコト及新指導部カ右害毒ノ影響脫却ニ充分ナル活動ヲ爲サナカツタコトニ存スル問題ハ各部局ノ相互關係カ國民ノ敵ノ設定シタ關係其儘テアルコトタ浦潮ニハ既ニ三ケ月以上水路人民委員部ノ十二名ノ一團カ活動シテキタコトヲ想起スルト結局此ノ一團モ事實ニ於テハ前記有害ナル組織更新ニ對シ何事モ爲シテ居ラナカツタト言ハネハナラヌ

一例トシテ商船隊ノ重要ナ二部局卽チ營業部ト機械船舶部ノ相互關係ヲ引合ニ出スコトカ出來ル嘗テ此ノ二部局ヲ主宰シタ毒者ハ彼等ノ責任テアル商船ノ停滯ヲ說明スルニ船舶修理ノ不圓滑ニ

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0204
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歸スルカ如キ瞞着手段ヲ廣ク行ヒ一九三七年度第三、四半期中ニ於テ「スモレンスク」「シムフエローポリ」「クーラ」其他ノ船舶ヲシテ六回迄十日乃至二十五日間ニ亘リ就航不能ニ陷ラシメタ然カモ夫ハ船舶修理工場カ計畫ニ基ク修理ヲ消化シ切レナイテ困ツテキル時ニテアル換言スレハ實際ニ於テハ故意ニ船舶ヲ停滯セシメタモノテ輸送ノ不圓滑ヲ來シタノモ無理ナイコトテアロウ

其ノ結果此等者毒者ハ第三、四半期間ニ於テ計畫ニ依リ豫定セラレタルトコロヨリ一、五〇〇、〇〇〇屯ノ書類多數ノ船舶修理註文ヲ爲シ然カモ一隻モ技術的ニ修複セラレタモノカナイ有樣タ

然ラハ最近ニ於テ何カ變化シタカ？事實ハ各部局ノ相互關係ハ完全ニ昔ノ儘テアルコトヲ物語ツテキル營業部ヲ主宰スル水路人民委員部派遣ノ「バーニク」ハ經營惡シキカ故ニ惹起サレル停滯ヲ陰蔽スル爲船ヲ修理工場ニ廻ハス命令ヲ發ス可キ好機ヲ求メ商船隊指導者「フヨードトフ」及「ルードヌイ」並水路人民委員部全權「テチエフ」モフエーエフ」ハ此ノ有害ナ方法ヲ支持スルニ吝テナイ

汽船「ウオローフスキー」號ノ修繕ハ第一號工場ニ於テ冬期間行ハルヽ筈テアツタ然ルニ商船隊指導者ハ之ヲ十月二十日ニ入渠セシメテキル是ハ積荷ノ荷役カ甘ク行カナイ結果發生シタ二十日間ノ停船ヲ糊塗スル爲タツタ然カモ此ノ期間ニ船ノ技術的方面カ改善セラレテ居ラナイニ至ツテハ何ノ爲ノ入渠カ聞キ度クナル之ト同樣ナコトカ「トイムラト」及「クレヅチエツト」ニモアツタ營業部ノ責任テアル荷役ノ不圓滑、炭水ノ缺乏等ノ爲此等ノ船ハ十二月中出帆ニ支障ヲ生シタカ之ヲ蔭蔽スル爲「バーニク」ハ前述ノ樣ナ方法テ「トイムラト」ニハ四月間「クレヅチエツト」ハ九日間修理ヲ命シテキル右ニ際シ機關士達カ「トイムラト」ニ於ケル鐵管取付作業ヤ「クレヅチエツト」ニ於ケル汽罐掃除作業ノ爲メ特ニ入渠ノ必要ナキコトヲ建議シタカ容ルヽトコロトナラナカツタ何トナレハ命令起草者連ノ爲ニハ不生產的停船ヲ少シテモ蔭蔽シヤウト言フ目的以外ニハ何モナイカラタ

極端ナ例ハ「トルクメン」號ノ場合タ同船ハ十一月二十九日計

F-0058
0205
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

書ニ依ル冬期修理ノ爲第二工場附近岸壁ニ繫船セラレタル工場ノ職員及乘組員ハ部分的取除ケ作業ニ着手セル處十二月九日水路人民委員部全權「ナイ」モフエーエフ」ノ裏書アル修理停止、取除キタル部分ノ取付及出港ニ關スル命令ヲ受領シ四日間ヲ費シテ取付作業ヲ爲シ正ニ出港ノ爲ニ解纜セントセル十二月十五日同一指導者卽チ「フヨードトフ」「パーニク」「ホミヤコフ」及「チモフエーエフ」ハ前命令ヲ取消シテキルノ斯クテ此ノ航洋汽船ハ十六日ノ日子ヲ失ツテシマツタノテアル

卽チ水路人民委員部派遣員ノ參加ノ下ニ組成セラレタ冬期船舶修理豫定計畫ハ彼等自ラニ依ツテ破毀セラレテキルノタ

冬期船舶修理上重要ナ十二月ノ修理計畫ハ前顯「トルクメン」號ノ如キ事例ノ外「ネヴアストロイ」其他ノ船舶ノ工場岸壁ヘノ廻航カ二十日乃至三十五日モ遲レタ爲破綻ヲ生シテキル

抑モ前記水路人民委員部派遣員ノ使命ハ商船隊活動ノ不動ノ原則タル「ダイヤ」ノ作成ニ在ツタ筈テアル加之此等派遣員ハ實務ヨ

リ遊離シタル船舶修理ニ對スル直接ノ援助ヲ爲サナイ」派遣員中ノ一員「ガーヌス」ノ以下ニ述フル行動ノ如キ何ヲ意味スルカ

第二工場カ其支配人ヲ失ツタニ際シ水路人民委員部全權「チモフエーエフ」ハ「ガーヌス」ニ之カ指導ヲ委任シタカ「ガーヌス」ノ出シタ命令ハ次ノ樣ナ內容ヲ有スル卽チ「余ハ本日ヨリ水路人民委員部全權ノ命ニ依リ事務ノ引繼ヲ爲サスシテ第二工場支配人ノ職務ヲ臨時執行スルコトヽナレリ」云々

說明ハ不要ト思フ然シ之ハ序幕ナノタ其後此支配人ハ三週間工場ノ事務室ニ二時間宛出勤シ職工等ニ對シ電話ヲ以テ命令ヲ出シタカ一回モ作業場ヲ訪レテキナイ漸ク十二月二十日有害分子鑄造工場ヲ水浸シニシタ事件後商船隊政治部カ同二十三日集會ヲ催シタ際勞働者ト會見シタノミテ右集會ニ於ケル「ガーヌス」ノ演說ハ簡單ニシテ不得要領ノモノテアツタ工場從業員ハ此ノ水路人民委員部派遣員ヨリ商船隊ニ於ケル現狀ニ關スル詳細ナル批評ヲ期待シタノタカ右派遣員モ要スルニ商船隊ニ於ケル缺陷ノ單ナ

F-0058
0206
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ル記錄者テアルラシイ

在浦潮日本帝國總領事館

B

S 61401 211

F-0058

0207

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部
第三課

寫三部

類F門1類4項0目3

文書課長

文書課發送 昭和拾參年壹月拾五日發送濟

主管 歐米局長

主任 第一課

昭和十三年一月十日起草

浄書

校正（原稿）

（浄書）

別紙

歐一 機密 普通 第五號

昭和 昭和拾參年壹月拾參日 附 附屬

信人名 軍令部 野村第三部長

發信人名 井上政亜局長

記錄 名件 雜件

件名 浦潮ニ於ケル船舶修理ニ対スル警告論説譯報ノ件

本件ニ關シ今般在浦潮七田總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先

（昭和十二年十二月二十日附在浦潮總領事館來（往）電第三三三號寫並附屬書寫）

公信案

外務省

S 61401 212 ~~13~~ ~~42~~

F-0058

0208

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

照合票

(分類 F/4.0.3)

歐普通第 六 號

昭和十三年 一月十三日

發信者 外務省歐亜局長

受信者 海軍省軍令部長殿

件名 「ソ」聯邦北洋航路船舶ニ係造船事業ノ乱脈摘発記事ニ関スル件

記錄件名

原書ハ左記ニ在リ

記

A門6類5項0目/15/號 蘇聯邦内政ニ係雑纂 及革命及共産主義運動ニ係ル トロツキー孤陰謀事件

S 61401 213

F-0058

0209

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

	發信用	執務用	
主信	1	20	31
附 甲	1	2	3
乙			
丙			
屬 丁			
備考	分類 F門1類		

調査部 三

文書課長

文書課發送 昭和拾參年壹月廿四日發送濟

主管 歐亞局長

歐一 機密 第 一七 號

昭和拾參年壹月廿日

主任 第一課長

昭和十三年一月二十日起草

淨書 正 校 (原稿) (淨書)

受信人名 軍令部 野村第三部長

名件 浦潮ニ於ケル船舶修理書類ノ不振ニ關スル新聞記事ノ件

本件ニ關シ今般在浦潮七田總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付爲御參考右茲ニ送付ス

本信送付先

(昭和十三年一月五日附在浦潮總領事館來(往)電機第七號寫並附屬書寫)

公信案

名件錄記

名人信發 井上歐亞局長

外務省

S 61401 214 20 134

649

寫送先

電信課長

大臣

次官

東亞

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文化

調査

人事

儀典

文書

會計

祕書官

分類F門1類 第4號の3

昭和13 三二九八 略 浦潮 二月五日前發

本省 五日夜着

廣田外務大臣 歐、情

第三五號

客年貴電合第一七三二號ニ關シ(蘇聯邦第二回浮船渠回航ニ關スル件)

本月四月ノ「太平洋ノ星」紙ノ報スル所ニ依レハ第二浮船渠ハ二隻ノ曳船ニテ曳航セラレ二月下旬黑海ヲ出發シ第一浮船渠ト同一經路ニ依リ浦潮ヘ回航セラルヘク其ノ準備作業ハ當ニ完了セントシツツアリト言フ(了)

七田總領事

外務省

S 61401 215

F-0058

0210

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和13　三五〇〇　略　アンカラ　二月七日後發　歐、情
本省　七日後着

廣田外務大臣　武富大使

第一六號

五日發「オデツサ」電報ハ「ニコラエフ」造船所ニテ建造中ノ「ペトロパウロフスク」向ケ五千噸ノ浮「ドツク」工事近ク終ルヘク數箇月前ニモ同種「ドツク」一基極東ニ向ケ輸送サレタリト報セリ

（了）

外務省

61401　216

歐亞局

公電第四九號

昭和十三年二月十日

在「ソヴイエト」聯邦
特命全權大使　重光

外務大臣　廣田弘毅殿

「ソ」聯邦碎氷船建造ノ件

二月九日附「モスコー、デーリー、ニユース」紙ハ北氷洋征服ノ爲ニ着手シタル「ジヨセフ、スターリン」號「ヴイヤチエスラフ、モロトフ」號「ラザール、カガノウイチ」號及「オツトー、シユミツト」號ノ碎氷船四隻中「スターリン」號及「カガノウイチ」號ハ今年始メ就役スヘク他ノ二隻ハ明年就役スル豫定ナルカ碎氷船建造ハ「ソ」聯ニ於テ右四隻ヲ以テ嚆矢トナシ一九一七年英國ニ於テ最

在ソヴィエト聯邦日本大使館

61401　217

F-0058
0211
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

建造セラレタル「クラツシン」號ヨリ大ニシテ長サ一〇六、六米幅二三、一米高サ九、一五米、排水量九千噸乃至一萬噸主要蒸汽機關三、各三千三百三十馬力ニシテ總テ國產ナリト誇リ居レリ

右何等御參考迄切拔添付報告ス

在ソヴィエト聯邦日本大使館

S 61401 218

F-0058

0212

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

More than 100 airplanes took part in a violent air battle which occurred on Feb. 7 near Teruel. The republicans brought down two insurgent planes. Six insurgent planes bombed Figueras (on the Franco-Spanish border) on the morning of the same day, killing 10 persons.

A number of insurgent attacks in the Estremadura sector of the southern front have been successfully repulsed by the republicans with considerable losses to the fascists.

Ships Carrying U. S. Oil Attacked by Japanese Planes

LONDON, Feb. 8.

A flotilla of junks, chartered by the Texas Oil Company for the transportation of benzine, was attacked by Japanese airplanes near Peikai (south of Canton) and fired upon from machine guns, reports Reuter's Hongkong correspondent. One Chinese sailor was killed.

thousands of workers into Socialist competition are basic factors in the rising production figures of one enterprise after another.

But even this is not enough. It is not sufficient for single enterprises, even whole branches of industry, to work in a cultured manner, to draw thousands of new workers into the ranks of the Stakhanovites; the slogan of Socialist competition is fulfillment and overfulfillment of this year's plan by *all* branches, *all* factories and plants. Workers, engineers and managers alike are inspired in their efforts to achieve this goal by the words of V. M. Molotov, head of the Soviet Government.

"... In our country only that mill works in a Socialist way which gives not less of *good production*, but *more* than such mill beyond the borders of the USSR."

speakers at these meetings branded the crimes of the Italo-German air force which is bombarding peaceful Spanish cities and demanded the termination of the blockade of Republican Spain.

Maurice Thorez, secretary of the Central Committee of the Communist Party of France, speaking at one of the meetings, protested against the intervention of Hitlerite officials in French internal policy as expressed in the demands of the German ambassador here that a number of documents be removed from the exhibition "Five Years of Fascist Regime in Germany." The Paris police complied with this request.

Eden Replies on British War Exports To China

LONDON, Feb. 8.

Britain exported war materials to China to the sum of 134,000 pounds sterling between June 1, 1937, and Jan. 31, 1938, declared Anthony Eden, British foreign secretary, replying to a question in the House of Commons.

Asked by Knox (Conservative) whether the export of war materials to China ought not to be limited so as not to irritate Japan, Eden referred to the recent resolution adopted by the League of Nations on the Chinese question, according to which the powers are recommended to refrain from actions which might impair China's resistance.

In reply to another question, Eden stated that the export of war materials to Japan from Britain was negligible.

Chinese Air Force Strengthened

SHANGHAI, Feb. 8.

The Chinese air force has been considerably strengthened, according to Reuter, which maintains that within the past 10 days China has imported 250 pursuit and bombing planes. In addition, 200 foreign aviators and a number of Chinese pilots who have been trained abroad, recently arrived in China.

slightly injured out of a crew of 19 when the dirigible USSR V-6 crashed 18 km. west of the station of Beloye More, near Kandalaksha, northern Karelia, at about 7 p.m. on Feb. 6. The airship, which had left Moscow on the evening of Feb. 5, under the command of N. S. Gudovantsev, was making a training flight from Moscow to Murmansk and back for the purpose of deciding whether it should be sent to remove the Papanin group from the drifting ice floe, the crew of the dirigible having asked special permission to do so from the Government.

Those killed were N. S. Gudovantsev, commander of the dirigible USSR V-6; I. V. Pankov, second in command; S. V. Demin, first assistant; V. G. Lyanguzov, second assistant; T. S. Kulagin, third assistant; A. A. Ritsland, navigator; G. N. Myachkov, second navigator; N. A. Konyashin, senior mechanic; K. A. Shmelkov, first mechanic; M. V. Nikitin, mechanic; N. N. Kondrashev, mechanic; V. D. Chernov, radio operator, and D. I. Gradus, meteorologist.

V. I. Pochekin, fourth assistant to the commander, and K. P. Novikov and A. N. Burmakin, mechanics, received slight injuries, while V. A. Ustinovich, engineer of the dirigible, I. D. Matyunin, mechanic, and Vorobyov, engineer-radio operator, were uninjured.

After taking off from Moscow, the dirigible maintained regular radio communications with Moscow, Leningrad and other points, and passed safely over Petrozavodsk and Kem. Towards 7 p.m. on Feb. 6 it was approaching the station of Kandalaksha, 277 km. from Murmansk, its passage near the station of Zhemchuzhnaya, 39 km. from Kandalaksha, being recorded at 6.56 p.m. on that day.

After receipt of a radiogram at 6.56 p.m. from Gudovantsev on the safe progress of the flight, the radio of the USSR V-6 suddenly became silent and the dirigible failed to reply to many calls sent out from land stations.

The dirigible had flown at a height of 300 m. in the lower layer of the clouds over the section of the route to Yandozero, and further as far as Kem in clouds, and was approaching Kandalaksha while it was snowing, which greatly interfered with the visibility in the growing darkness.

Alarming reports were [illegible] 8 p.m. from local residents, who towards 7 p.m. had observed the dirigible near the Beloye More station, 19 km. from Kandalaksha. The inhabitants had heard a loud roar, after which the noise of the engines of the dirigible had ceased and the airship itself had disappeared from sight.

Search parties consisting of local citizens and men from Red Army units stationed nearby, were sent to the region of the accident on deer and skis. The efforts of radio stations to locate the dirigible in the air at the same time were redoubled, but without success.

At dawn on Feb. 7, one of the search parties discovered that the USSR V-6 had met

data, the catastrophe was caused by the dirigible striking a mountain top, owing to insufficient altitude and poor visibility, the engines working faultlessly throughout the flight.

A Government commission has left Murmansk for the scene of the accident.

The bodies of the men who perished in the catastrophe will be brought to Moscow where they will be buried at the expense of the state. The day of the funeral is to be announced later.

The Government has decided to pay the families of the dead airmen the sum of 10,000 rubles each and to grant them substantial pensions.

Slepnev Pays Tribute to Crew of USSR V-6

By M. T. SLEPNEV,

(Hero of the Soviet Union)

The design and equipment of the USSR V-6 were faultless. The catastrophe occurred as result of a tragic accident. Because of insufficient altitude and poor visibility the ship crashed into the top of a mountain.

I knew almost all of the members of the crew very well—they were pioneers of Soviet air navigation, daring commanders of the first ships of the squadron, educated in the K. E. Tsiolkovsky Dirigible School.

Not long ago I took part in a test flight over Pereyaslavl Lake for the first time. The commander of the ship, Order-bearer T. Gudovantsev, was faced with the difficult task of landing on water. He came down on the water and then took off again excellently. The flight made a profound impression on me. While the ship drifted slowly on the water Gudovantsev and I got into a rowboat and made a small trip around the lake.

Gudovantsev was an experienced commander, who had been awarded an Order for his courage, for his ability and for his resoluteness.

I also knew Pankov very well. He took part in the test flight to Murmansk in the capacity of second in command. He was a quiet, very level-headed commander, infinitely devoted to his work. He took part in a number of long dirigible flights, at the end of last year directing an endurance flight.

I knew the meteorologist, D. I. Gradus, very well. He was chief of the meteorological station at the dirigible port. He had an excellent knowledge of his difficult and intricate work. Gradus also took part in a number of long flights, including the non-stop endurance flight (130 hrs.) over the Moscow—Sverdlovsk—Moscow route.

S. V. Demin, T. S. Kulagin, G. N. Myachkov and the others had also shown themselves to be very capable. Vorobyev, who fortunately, escaped without injury, was in charge of the radio apparatus which had been installed on the ship, and he was to have instructed radio operator Chernov, who met tragic death. V. I. Pochekin, one of the most authoritative workers of the squadron, escaped with slight injuries. Ustinovich for the second time emerged from a catastrophe unharmed.

The memory of the comrades who perished, creators of the squadron, who were heart and soul bound up with it, will always remain with us. We are certain that the comrades of the daring members of the USSR V-6 will continue the glorious work of creating a powerful Soviet dirigible fleet equipped with the most modern technique.

The Soviet Union will build beautiful new ships in the near future to take the place of the USSR V-6.

S 61401 219

F-0058

0213

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

SOVIET UNION BUILDING FOUR POWERFUL ICE BREAKERS

Two to Be Launched This Year

By A. GRANAT

THE LARGE scale of the work carried on by the Soviet Union in mastering the Arctic calls for the construction of powerful ice breakers adapted to the difficult task of navigating the icebound waters of the Far North. The Soviet shipbuilding industry is completing work on the construction of four ice breakers—the Joseph Stalin, flagship of the Arctic fleet, the Vyacheslav Molotov, the Lazar Kaganovich and the Otto Schmidt. This month the boilers, machinery and large four-blade propellers are to be tested.

These will be the first Soviet-built ice breakers. Indeed, international shipbuilding has had but little experience in this field. A group of Soviet designers, however, succeeded in designing powerful ships, which will surpass the ice breaker Krassin. The Krassin, built in England in 1917, has been hitherto the world's most powerful ice breaker.

The Soviet ice breakers are to be 106.6 m. in length (exceeding the Krassin by 8.1 m.) and the beam is 23.1 m. The full height from keel to edge of deck is 12.61 m. The draught under full load will be 9.15 m. The displacement, depending upon the load, will vary from 9,000 to 11,000 tons

The builders encountered great difficulties in their work. Much effort was expended in giving the ship's hull the maximum durability, so as to assure the greatest resistance to the ice.

Much Machinery for Each Ship

The three main steam engines, which are of 3,330 hp. each, are installed in the stern. There will also be many other machines on each ice breaker—steam, electric and internal combustion machines. Each ship is to have four cranes, each of which will have three electric motors. There will be numerous other electric motors in various parts of the ship. Almost all the motors are Soviet made.

Up-to-date navigation equipment, especially adapted for Arctic sailing, is being installed in the ice breakers by the Northern Sea Route Administration. A powerful radio will be installed, along with an emergency radio. For the first time, catapults will be installed on ice breakers for the speedy take-off of two small planes carried on board each ice breaker. A special shaft will be installed for lowering a large plane.

Quarters With All Conveniences

The new ice breakers surpass all others for comfort. The crew will live in comfortable quarters, no more than four people to a cabin. The sailors and members of expeditions will rest in a large, beautifully decorted mess room and a Lenin Corner. Here they will have the opportunity to see films and listen to radio concerts, lectures and talks. The crew will have at their disposal a library, bath house, laundry and showers. Special rooms with the necessary equipment are to be placed at the disposal of scientific workers taking part in expeditions.

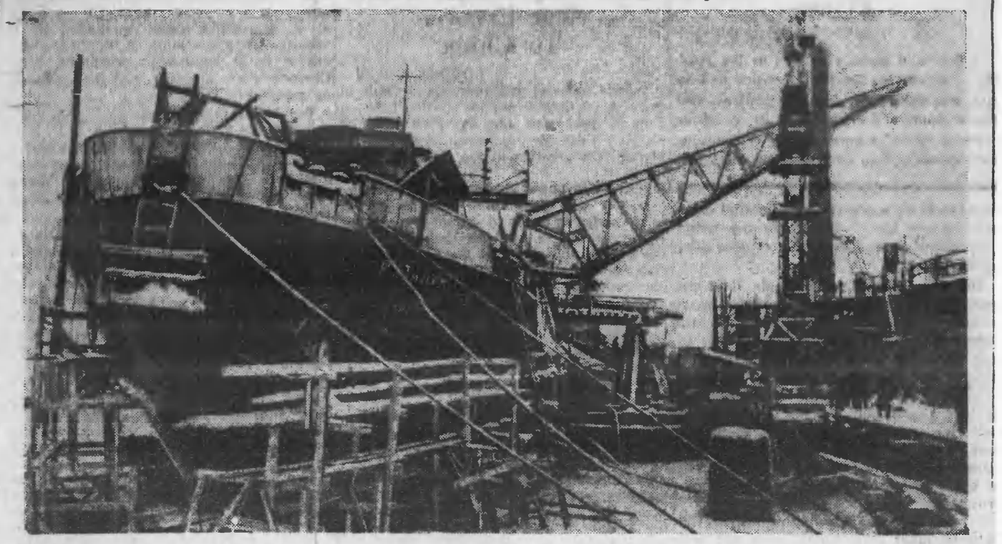
Everything has been done to make the labor of Soviet Arctic workers as light and productive as possible. Solicitude for the heroic worker of the severe Arctic is evident at every step.

Propeller breaks are quite common in the Arctic and changing them in the ice is almost impossible. For this reason the new ice breakers will have propellers with removable blades, and each ship will have a complete reserve set of 12 blades.

The workers building the Joseph Stalin are competing with those working on the Lazar Kaganovich. According to schedule, the latter is to be completed first.

A crew of experienced sailors to man the new ice breakers have been assembled by the Northern Sea Route Administration. These sailors are taking a special course so as to become thoroughly acquainted with the new ice breakers.

The Joseph Stalin and Lazar Kaganovich are to be in Arctic waters for the beginning of the 1938 Arctic navigation season. The other two powerful ice breakers will join them next year.



CONSTRUCTION of the J. Stalin, flagship of the Soviet ice breakers, at the Orjonikidze Shipyards, Leningrad Soyuzphoto

S 61401 220

F-0058

0214

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

情報部　第一課

機密第一〇六號

昭和十三年二月十四日

歐亞局

在哈爾賓
總領事　鶴見　憲

國際部

外務大臣　廣田弘毅　殿

件名

哈府船舶修理工場ノ成績不振ニ關スル件

本件ニ關スル二月十四日附在滿大使宛
拙信公領機密第一一七號寫送付ス

昭和三年貳月拾九日接受

別紙添付

90

S 61401 221

公領機密第一一七號

昭和十三年二月十四日

在哈爾賓
總領事　鶴見　憲

在滿洲國
特命全權大使　植田謙吉　殿

哈府船舶修理工場ノ成績不振ニ關スル件

駐哈外務局特派員公署ヨリ今般本件ニ關スル哈府「ラヂオ」（二月九日聽取）ノ譯文寫送付越セルニ付何等御參考迄別添ノ通進達ス

本信寫送付先

外務大臣

別紙添付

S 61401 222

F-0058

0215

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

駐哈爾濱外務局特派員公署

哈府ラヂオ報（二月九日聽取）

哈府船舶修理工場成績不良

哈府船舶修理工場ハ春期航行開始ノ爲ノ決定的段階ナリ然ルニ不拘同工場ニ於ケル冬期修理ノ成績ハ不良ニシテ一月中修理不合格件數ハ二百一件ニ及ヘリ仍テ黨及政府ハ水運ノ難局ヲ打開スル樣警告セリ航行ハ定期ニ開始セサルヘカラス而シテ之カ爲メニハ期限迄ニ修理ヲ完了スルノ要アリ哈府船舶修理工場ハ之ヲ念頭ニ置カサルヘカラサルナリ

S 61401 223

F-0058

0216

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

照合票

記錄件名

第八二號

昭和十六年三月二日

發信者 在瑞沙 七田總領事

受信者 廣田大臣

件名 漁業用船舶修理狀況ニ關スル件

原書ハ左記ニ在リ

記

E門4類9項0目1/1號

極東露領沿岸於ケル漁業干係

新件 出漁船干係

(分類 F1. 4. 0. 3)

S 61401 224

F-0058

0217

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(分類五ノ、六、〇、三)

主管 歐亞局長

主任 第一課

電信課長

發電係

昭和十三年三月二十五日起草

電送第 7735 號

昭和 13. 3月 25日 午後 3 時 分發

暗略 第 0 號 (　　)

宛 在浦潮 七田總領事

發 廣田外務大臣

件名 極東向浮ドック竣工ノ件

記錄件名 各國船渠並造船業要綱

在ソ大使發本大臣宛電報第三四九號

(以下全文轉電ノコト)

總番第八一四四

電信案

外務省

S 61401 225

電信課長

大臣

次官

東亞

歐亞

米洲

通商

條約

情報

文化

調査

儀典

人事

文書

會計

祕書官

寫送先

電門ノ編入環〇四,三

昭和13 一〇七九〇 暗 坡西土 四月十五日後發 歐

廣田外務大臣 本省 十六日前着

第四六號 大野領事代理

往電第四三號ニ關シ

Alby-Dock No. 1051 ハ Plovkechi-Dock No. 1051 其ノ噸數ハ五、一七六噸ノ何レモ誤ナルニ付御訂正相成度シ尚同船渠寫眞郵送セリ

(了)

各國船渠並造船業要綱

外務省

S 61401 226

F-0058

0218

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歐亞課

第一課

昭和十三年五月四日 接受

普通第一四〇號

昭和十三年四月十五日

在浦潮斯德
總領事 七田基玄

外務大臣 廣田弘毅殿

「コムソモリスク」市ニ造船工業學校新設ノ件

本月八日附「太平洋ノ星」紙所報ニ依レハ「コムソモリスク」市ニ造船工業學校(スドストロイ|チエリヌイ テフニクム」新設ノ件ハ愈々具体化シ既ニ建築設計案ハ人民委員會ノ確認ヲ得タルカ本年秋季新學年ヨリ授業ヲ開始シ新年度ハ百二十名ノ生徒採用ノ豫定ナル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先 在蘇聯邦大使
在浦潮日本帝國總領事館

査調 13.5.10 課三

410

S 61401 227

昭和十三年四月十五日

在浦潮斯德
總領事 七田基玄

外務大臣 廣田弘毅殿

「コムソモリスク」市ニ造船工業學校新設ノ件

本月八日附「太平洋ノ星」紙所報ニ依レハ「コムソモリスク」市ニ造船工業學校「スドストロイ|チエリヌイ テフニクム」新設ノ件ハ愈々具体化シ既ニ建築設計案ハ人民委員會ノ確認ヲ得タルカ本年秋季新學年ヨリ授業ヲ開始シ新年度ハ百二十名ノ生徒採用ノ豫定ナル趣ナリ

外務省

S 61401 228

F-0058
0219
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍令部
第二課長宛

十三

A 1 4 0 0 1 3

歐亞局

公機密第五四號

昭和十三年四月廿日

在ポートサイド
領事代理 大野道造

外務大臣廣田弘毅殿

露國浮船渠 PROVUCHI DOCK No.1 募集

送付ノ件

四月中旬電報ヲ以テ報告申進置タル
露國浮船渠 PROVUCHI DOCK No.1 募集ニ業何
等御指示ニ送付ス

在ポート・サイド日本領事館

軍令部
第二課
昭和十三年五月廿日
接受

歐亞
13.5.9
一課

S 61401 229

F-0058

0220

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部
F-1/2/6項の3
調査部
要移牒

第一課

普通第一四七號

昭和十三年四月十八日

在浦潮斯德
總領事 七田基

外務大臣 廣田弘毅殿

北氷洋航路ニ就航スヘキ船舶ノ修理狀況ニ關スル件

本月十五日附當地機關紙ノ報スルトコロニ依レハ本年北氷洋ヲ通過シテ西歐ニ赴ク可キ船舶ハ七隻ニ達スヘキ處其ノ修理狀況不良ナル趣ヲ以テ之カ促進方警告シ居レルカ今日迄ノトコロ修理成レルハ「ハバロウスク」號一隻ニシテ「タワーリシチ、クラーシン」「ワンツエチ」「アナドイル」「イスクラ」及「キンギセツプ」等ノ各汽船ハ修理ハ着手シタルカ又ハ將來修理行ハル可キ豫定ナ

記錄之若干抹消方並ニ抹消
昭和三年五月四日 接セ
歐亞 13.5.02
十課
調査 13.5.13 課三

在浦潮日本帝國總領事館

ル趣ナリ

右新聞ノ報道スル北氷洋直通航路ニ付テハ昨年度同方面ニ就航セル船舶ノ多數カ其誘導ニ任シタル碎氷船ノ大部分ト共ニ同方面ノ堅氷中ニ漂泊中ナルニ鑑ミ曩ニ本月四日附公第一一三號ヲ以テ報告ノ通リ蘇聯邦人民委員會議ノ警告ヲ受ケタル北氷洋航路管理局トシテハ先ツ以テ此等各營船舶ノ救出ヲ行ヒ且北氷洋各地ニ散在スル氣象觀測所乃至同管理局所屬企業人員ノ更迭食料器材ノ補給等ニ當ラサルヘカラサル可キヲ以テ數年來繼續實施シ來レル北氷洋ヲ經由スル東西兩方面聯絡ノ商業的航海ハ或ハ實現ノ運ニ至ラサルニ非スヤト推測セラルヽ次第ナルヲ以テ本件新聞ノ報道ニハ俄カニ信ヲ措キ難キモ何等御參考迄右報告ス

追而本月一五日附公第一四三號ヲ以テ報告ノ「クズネツクストロイ」號ハ碎氷船型汽船ナルニ鑑ミ今回太平洋商船隊ニ所屬シテ前記各汽船ト共ニ北氷洋乃至極北方面ニ對スル物資ノ輸送ニ從事スルニ非スヤト思考セラル

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0221
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

要移牒

本信照合票挿入先

門	類	項	目	號
三	1	6	0	6

國際聯盟

第一課

普通第一四七號

昭和十三年四月十八日

在浦潮斯德
總領事 七田基

外務大臣 廣田弘毅殿

北氷洋航路ニ就航スヘキ船舶ノ修理狀況ニ關スル件

本月十五日附當地機關紙ノ報スルトコロニ依レハ本年北氷洋ヲ通過シテ西歐ニ赴ク可キ船舶ハ七隻ニ達スヘキ處其ノ修理狀況不良ナル趣ヲ以テ之カ促進方警告シ居レルカ今日迄ノトコロ修理成レスク」號一隻ニシテ「タワーリシチ、クラーシン」「アナドイル」「イスクラ」及「キンギセツプ」理ハ着手シタルカ又ハ將來修理行ハル可キ豫定ナ

在浦潮日本帝國總領事館

調査 13.5.13 課三

記錄若干抹消 昭和三年五月四日

獻 13.5.0 課

ル趣ナリ

右新聞ノ報道スル北氷洋直通航路ニ付テハ昨年度同方面ニ就航セル船舶ノ多數カ其誘導ニ任シタル碎氷船ノ大部分ト共ニ同方面ノ堅氷中ニ漂泊中ナルニ鑑ミ曩ニ本月四日附公第一一三號ヲ以テ報告ノ通リ齊聯邦人民委員會議ノ警告ヲ受ケタル北氷洋航路管理局トシテハ先ツ以テ此等各營船舶ノ救出ヲ行ヒ且北氷洋各地ニ散在スル氣象觀測所乃至同管理局所屬企業人員ノ更迭食料器材ノ補給等ニ當ラサルヘカラサル可キヲ以テ數年來繼續實施シ來レル北氷洋ヲ經由スル東西兩方面聯絡ノ商業的航海ハ或ハ實現ノ運ニ至ラサルニ非スヤト推測セラルヽ次第ナルヲ以テ本件新聞ノ報道ニハ俄カニ信ヲ措キ難キモ何等御參考迄右報告ス及フ

追而本月一五日附公第一四三號ヲ以テ報告ノ「クズネツクストロイ」號ハ碎氷船型汽船ナルニ鑑ミ今回太平洋商船隊ニ所屬シテ前記各汽船ト共ニ北氷洋乃至極北方面ニ對スル物資ノ輸送ニ從事スルニ非スヤト思考セラル

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058

0222

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本信寫送付先　在蘇聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

61401　232

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

外務省

昭和13　一一一〇二　暗　倫敦　四月十九日後發
本省　廿日前着　歐、情

廣田外務大臣

吉田大使

第二七一號

四月二日發行ノ Lloyd's List and Shipping Gazette ニ依レハ黑海北岸 Nicolieff ニアル Marty 造船所ニテ新造セラレタル浮「ドック」（容積五千噸）ハ同地ヲ發シ「カムチヤツカ」半島「ペトロパウロフスク」ニ向フ準備ノ完成ヲ見タル由ナルカ右ヲ曳航スルハ汽船 Kharkov 及曳船 Tyhoon ニシテ鋼鐵索ヲ以テ連結シ「カラバン」式ニ航海スヘク其ノ長サ約二海里ニ及ヒ船員ハ百二十五名ナリト言フ尙同船ハ石炭積載ノ爲「スエズ」運河ニ二日、機關淸掃ノ爲新嘉坡ニ五

61401　233

F-0058
0223
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

日碇泊ノ豫定ナル趣

本件ニ付種々取調ヘタルモ右以上ノコトハ判明セサルカ當地郵船ニ依頼シ「ロイド」社ニ夫レトナク問合セシメタル結果ニ依レハ右情報ノ出所ハ祕密ナルモ確實ナル筋ナル趣ナリ

亞歴山、古倫母、新嘉坡、香港ヘ暗送セリ

外務省

S 61401 234

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

分類 F.1.4.0.3

昭和13 一一一九七 略 倫敦 四月廿日後發 歐、情
本省 廿一日前着

廣田外務大臣

吉田大使

第二七二號

（極東向蘇聯浮「ドツク」ノ件）

往電第二七一號蘇ヘ暗送セリ

寫送先

外務省

S 61401 235

F-0058

0224

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部

	發信用	執務用	
主信	4	1	5
附屬 甲	〃	〃	〃
乙			
丙			
丁			
備考			

要寫二部
懸案

別紙

文書課長

文書課發送 昭和拾參年五月拾貳日發送濟

主管 歐亞局長

歐一 機密 普通 第二一七一號

昭和拾參年五月九日

主任 第一課長

昭和十三年五月九日起草

淨書 校(原稿) 正

受信人名 陸軍省 軍務局長 / 參謀本部 第二部長 / 海軍省 豐田軍務局長 / 軍令部 野村第三部長

名件錄記

發信人名 井上歐亞局長

附屬

件名 北氷洋航路ニ就航スヘキ船舶ノ修理狀況ニ關スル件

本件ニ關シ今般在浦潮七田總領事ヨリ別紙寫ノ通報告アリタルニ付御參考ノ爲右茲ニ送付ス

本信送付先 陸、海軍省、參謀本部、軍令部

(昭和十三年四月十八日附在浦潮總領事館來(往)電 機密 第一四七號寫並附屬書寫)

公信案

外務省

S 61401 236

9 ~~171~~

別紙

文書課長

文書課發送 昭和拾參年五月拾八日發送濟

主管 歐亞局長

政一 機密 普通 第一七八號

昭和拾參年五月拾六日

主任 第一課長

昭和十三年五月十一日起草

淨書 校(原稿) 正

受信人名 軍令部 野村第三部長

名件錄記

發信人名 井上歐亞局長

附屬 有

件名 ソヴエト聯邦浮船渠寫眞送付ノ件

今般在ポートサイド大野領事代理ヨリソ聯邦浮船渠 Pravuchi dock No. 105 寫眞三葉送付越セルニ付茲ニ送付ス

(別添寫眞三葉添付ノコト)

公信案

外務省

S 61401 237

16 116

F-0058

0225

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長
大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

項目類別門類

昭和13　一四一五二　暗　新嘉坡　五月廿日後發　歐、情
廣田外務大臣　本省　廿日夜着
第一一二號　岡本總領事

往電第一〇八號「ドツク」ノ屆出噸數（「グロス」）一三一三、八四（「ネツト」）一二六、二五但シ新聞ハ六、〇〇〇或ハ五、〇〇〇噸ト報道目的港「ペトロパウロフスク」廿二日當地發北上ノ豫定曳船「タイフーン」噸數「グロス」五一五「ネツト」六三汽船「カーコフ」「グロス」六六八九「ネツト」三九九九噸後者ハ當地ニテ石炭一、六〇〇噸ヲ積込メリ（了）

記事番号　各國船渠並造船業ノ干係雜件

外務省

S 61401 238

電信課長
大臣
次官
東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

項目類別門類

昭和13　一四三七七　暗　新嘉坡　五月廿三日後發　歐、情
廣田外務大臣　本省　廿三日夜着
第一一四？號　岡本總領事

往電第一一二號ニ關シ
「ドツク」ハ二十三日午後二時北上セリ消息通ノ談ニ依レハ石炭及食糧一箇月分ヲ準備シ居レル趣ナルニ付或ハ目的地ヘ直行スルニアラスヤト言フ
英ヘ暗送セリ

外務省

S 61401 239

F-0058
0226
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

問題書類人名
題 目 調査部
第 ハ ノ ノ

調査部第三課

歐亞局

公第 六二 號

昭和十三年五月二十日

在新嘉坡
總領事 陶本一雄

外務大臣 廣田弘毅 殿

蘇聯極東海軍用浮船渠廻航ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ電報ヲ以テ報告ノ通ナル處別添新聞切抜何等御參考迄茲ニ送付ス

在新嘉坡日本總領事館

562

昭和十三年六月拾日 接受

調査 13.6.17 課三

亞 16 6.11 課

S 61401 240

F-0058

0227

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査部第三課

本信照合票挿入先

門	類	項	目	號
C	1	0	0	1

歐亞課

公第 六二 號

昭和十三年五月二十日

在新嘉坡
總領事 岡本一雲

外務大臣 廣田弘毅殿

蘇聯極東海軍用浮船渠廻航ニ關スル件

本件ニ關シテハ曩ニ電報ヲ以テ報告ノ通ナル處別添新聞切抜何等御參考迄茲ニ送付ス

在新嘉坡日本總領事館

562

昭和十三年六月拾日 接受

査調 13.6.17 課三

歐亞 13.6.11 二課

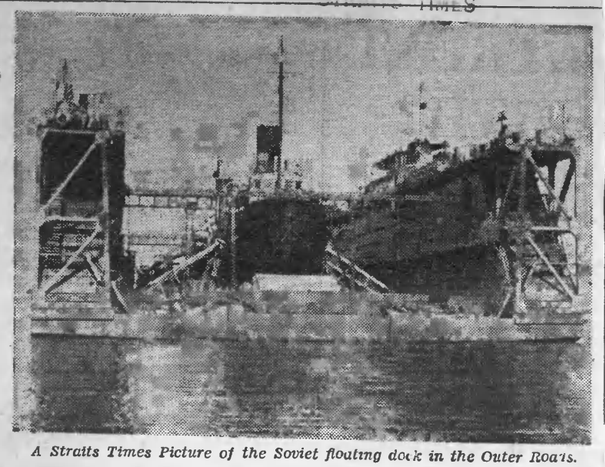
關係各局 通商局 通商課

S 61401 240

F-0058

0228

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



A Straits Times Picture of the Soviet floating dock in the Outer Roads.

Secrecy Surrounds Soviet Floating Dock.

UTMOST secrecy is being maintained about the purpose of the Soviet floating dock—the second to reach Singapore bound for Soviet Far Eastern ports—which arrived yesterday.

Japanese claim that the two docks are part of the scheme for the naval development of Vladivostok and Petropavlovsk, where there are a number of Soviet submarines, and small naval craft stationed.

Russian officers on the steamer Kharkov, which is towing the dock, refused to give any information and newspaper men were not allowed on the dock itself.

Bound for Petropavlosk a Soviet port in Kamtchatka, the Siberian peninsula due north of Japan, the 6,000-ton floating dock is being towed on its 10,000 miles journey by the Soviet freighter Kharkov and the 500-ton Typhoon.

An unusual feature of the journey is that two tugs and two large steel lighters are being carried to Kamtchatka aboard the dock.

Built at Nicolaeff Island in the Black Sea at the same yards as the other dock which passed through Singapore for Vladivostock last year, the dock left Odessa on Mar. 9.

Good weather has resulted in excellent progress being made with the tow.

The Kharkov has come alongside the Singapore Harbour Board wharves for bunkering, the dock having anchored in the Outer Roads.

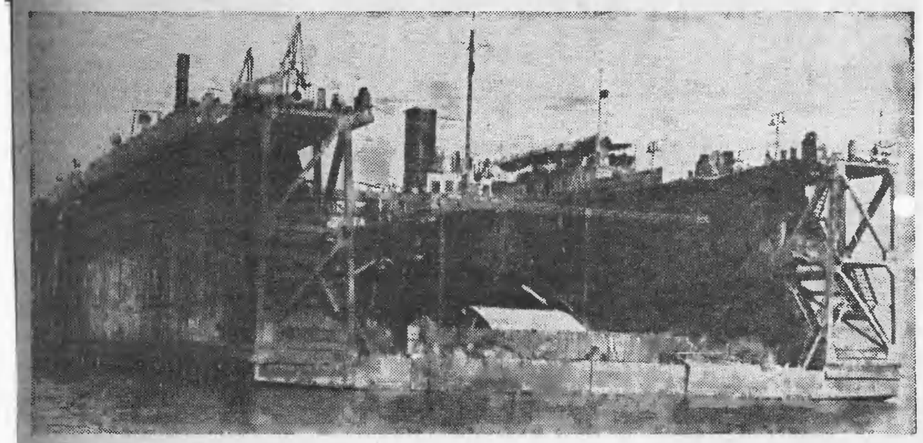
On the dock itself nearly 30 men are living in specially constructed cabins.

A11

S 61401 241

Free Press, 17th May, 38.

Soviet Mystery Floating Dock



THE 5,000 ton Soviet floating dock now in Singapore, showing one of the two tugs being carried inside the dock on the journey. Towed from Odessa in the Black Sea, the dock is bound for Petropavlovsk, Soviet port in Kamtchatka, north of Japan. The picture on the left shows the Soviet emblem which is painted on the side of the Soviet vessel Kharkov, which is towing the dock.

A11

S 61401 242

F-0058

0229

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

分類 F.1.4.0.3

昭和13　一六六三三　暗　浦潮　六月十一日前發
本省　十一日後着　歐、情

宇垣外務大臣

第一五五號

十日附赤旗紙ハ「オデツサ」ヨリ極東ヘ廻航中ノ浮船渠ハ汽船「ハリコフ」號及英船「タイフン」號ニ曳航セラレ九日午後四時對馬海峽ヲ通過セル旨報道シ居レリ

蘇ヘ轉電セリ

記錄甲 高國艦艇及造船業

外務省

寫

編者附言
原書ハ
A.6.5.0.1/16
ソ聯邦政情雜纂
ソ聯邦情報
ニ在リ

(分類 F.1.4.0.3)

昭和13　一六六九二　(暗)　武府　六月十一日後發
本省　十二日前着

宇垣外務大臣　來栖大使

第一四六號

蘇情第三二號

往電第一四五號ニ關シ

第二「ダンチツヒ」ニ於テ接觸ノ Lipkinche (「ラトヴア」人ニシテ十月革命後蘇聯共產黨ニ入黨技師トシテ工場ニ勤務次テ商船機關長トシテ各地ヲ遍歷三六年蘇聯ヨリ逃亡目下「ダンチツヒ」ニ居住同港入港ノ蘇聯船員等トモ窃カニ聯絡アリ「ラトヴア」政府ノ爲蘇聯ノ諜報ニ當ルモノノ如シ)ノ內話

「黑海「ニコライエフ」造船所ニ於テ目下黑海艦隊所屬三萬五千噸戰鬪艦六隻建造ノ準備完成セリ

二「レニングラード」造船所ニ於テ三萬五千噸戰鬪艦二隻目下建

外務省

F-0058
0230
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

造中内一隻ハ今秋他ハ明年夏竣工ノ豫定

三、「ニコライエフ」造船所ニ於テ極東ニ派遣ノ浮船渠二臺建造中内一臺ハ殆ント竣工他ハ今年夏竣工ノ豫定右ハ何レモ今年夏中ニ浦潮ニ回航ノ筈

四、樺太對岸ノ「ソヴイエツカヤ」灣ノ商船港建設工事ハ殆ント完成セリ同港並ニ附近ニハ要塞乃至同港ト「コムソモルスク」間ニ鐵道建設中

五、蘇聯海軍將兵ハ士氣振ハス現政權ヲ支持スルモノハ三十「パーセント」ヲ出テス他ハ悉ク之ニ反感ヲ懷キ機會アレハ窃カニ「サボタージユ」ヲ爲ス「ブリユツヘル」ハ聲望アリ右ハ主トシテ「ブ」カ必スシモ「スターリン」ノ顧使ニ甘ンセサルニ依ル

（了）

外務省

（日本標準規格B5）

S 61401

歐亞局

普通第二二三號

昭和十三年六月十二日

在浦潮斯德
總領事代理 廣岡

外務大臣 宇垣一成殿

浮船渠回航ニ關スル新聞報ノ件

本月十日當地機關紙上ニ掲載セラレタル蘇側浮船渠ノ回航狀況ニ關シテハ既ニ概要報告ノ次第アル處右記事要譯何等御參考迄茲ニ報告申進ス

本信寫送付先 在蘇聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

昭和十三年六月廿五日接受

亞歐 13.6.25 一課

S 61401

F-0058

0231

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二ケノ大洋ト十ケノ海ヲ航破シテ

「オデツサ」ヨリ極東ニ回航中ノ浮船渠回航委員長トノ無線通話

（一九三八年六月十日 赤旗紙及「ルイブナヤ インドストリヤ」紙

昨日「オデツサ」ヨリ極東ニ回航中ノ浮船渠回航委員長ト無電ヲ以テ談話ヲ交換シタルカ右ニ於テ同委員長ハ左ノ通報セリ

回航船隊ハ既ニ六十六晝夜航海シ居ル處本日午後四時對島ヲ通過シ強風中ヲ日本海ニ入レリ

本回航船隊ハ有力ナル浮船渠ト之ヲ曳航スル海洋汽船「ハリコフ」號及補助外洋曳船「タイフン」號ヨリ成リ延長一「キロ」ニ及ヒ壯觀ヲ極ム

而シテ曳航汽船ハ極東向各種貨物七千屯ヲ積載シ居リ且船渠ニモ蒸汽船二隻（「チカロフ」號及「ベリヤコフ」號）ト艀二隻ヲ搭載シアリ、回航計畫完全ナリシ結果回航船隊ハ其ノ大航海ニ於テ僅カニ二回短期石炭積込ニ外國港灣ニ寄航セルニ過キス

在浦潮日本帝國總領事館

「ソヴイエト」船員ハ其偉大ナル祖國ノ榮光ヲ十ケノ海洋ト二ケノ大洋ヲ超ヘテ昂揚シ外國港灣ニ碇船シ又ハ途中ニ於テ行交フ船舶ハ何レモ感嘆ノ聲ヲ放テ「ボリシエウヰキ」ノ大膽極マリナキ冒險ヲ賞讃セリ

本回航船隊ハ赤道ヲ避ケ一晝夜百六十浬ヲ航破シ計畫ニ依ル一日ノ航程ヲ約四十浬凌駕スル强行航海ヲ以テ航海シ來リ今尙航續中ニシテ「ソヴイエト」海員ハ困難ナル暴風ト印度洋ノ季節風並熱帶ノ炎暑ト濃霧ヲ克服シ約二十日ヲ短縮シテ政府ニ依ツテ與ヘラレタル任務ヲ完了スヘシ

（以下略）

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058

0232

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

電信課長

大臣

次官

東亞
歐亞
米洲
通商
條約
情報
文化
調査
人事
儀典
文書
會計
祕書官

寫送先

昭和13　一六七七一　（暗）　浦潮　六月十三日前發　歐、情
本省　十三日後着

宇垣外務大臣

第一五六號

往電第一五五號ニ關シ十二日機關紙ノ報道スル所ニ依レハ同日「ドツク」ハ略浦潮東北海上ニ達スヘキ豫定ニシテ爾後津輕海峽ヲ經テ「ペトロパウロフスク」ニ赴クヘシト言フ（了）

廣岡總領事代理

外務省

S　61401　249

寫

昭和13　一七九三一　略　莫斯科　六月廿二日後發
本省　廿三日前着

宇垣外務大臣

第七九〇號

廿二日ノ「プラウダ」ハ曩ニ「オデツサ」ニ於テ建設セラレ極東ヘ曳航中ナリシ五千噸ノ浮「ドツク」ハ二十日「ペテロパウロフスク」港ヘ到着セルカ右曳航ノ途日本近海航行中日本驅逐艦一晝夜ニ亘リ附纒ヘルノミナラス國際慣行ヲ無視シテ夜間探照燈ヲ照ラシテ航行ヲ防害セリト報シ又「タツス」報トシテ通信人民委員部ハ目下莫斯科、哈府間直通電信電話幹線（八六七八粁）ヲ建設中ニシテ其ノ内莫斯科、「イルクーツク」間（五四三〇粁）ノ架空線其ノ他ノ施設ハ既ニ完了セル旨ヲ報シ居レリ（了）

外務省

S　61401　250

（日本標準規格B5）

編綴附書
A.1.0.0.0-3
支那事変
各國ノ態度(ソ)
ニ在リ

（分類 E.1.4.0.3）

F-0058

0233

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務省

一三 六 二三

軍令部三部長

在蘇館附武官

歐亞
13. 6. 25
一課

六月二十二日ノブラブダハバリコフ、タイフーンノ二汽船曳航ノ下ニ本年三月三十日オデツサヲ出航セルコンクリート製浮ドツク（長サ一三〇米幅三一米積載量五〇〇〇噸）ハ六月二十一日ペトロパウロスクニ到着セル旨發表セリ

同記事中右ドツクガ日本近海航行中一晝夜ニ亘リ日本驅逐艦ノ監視ヲ受ケ且右驅逐艦ハ海上衝突豫防法ヲ無視シ夜間强力ナル探照燈ヲ以テ照射シ航行ヲ防害セル旨發表シアリ。

二十三日

S 61401 251

F-0058

0234

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

F1.40.3

歐亞局

機密公第四九六號

昭和十三年七月三日

在香港
總領事 中村豐一

外務大臣 宇垣一成殿

浦鹽ヘ廻送スル蘇聯邦浮「ドツク」ノ香港通過ニ關スル件

本件浮「ドツク」新嘉坡通過ノ報ヲ聞キテ以來各方面ニ手ヲ廻シ注意シ居リシモ遂ニ當港ニ委ヲ現ハサリシカ確カナル聞込ニ依レハ同「ドツク」ハ約二週間前香港々外五哩ノ地點ニ於テ外國船ト接觸シ燃料、食料及飲料水ノ補給ヲ受ケ一路浦鹽ニ向フル趣ナリ

在香港日本總領事館

昭和十三年七月拾九日接受
歐亞 13.7.20 一課

右聞込ノ儘報告ス

本信寫送付先 上海總領事 臺灣外事課長

在香港日本總領事館

F-0058
0235
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

秘

「ソ」聯邦軍事彙報第21號

昭和13-6-23　　軍令部第三部

第2次回航船渠ノ「ペトロ」着

昭和13年彙報第18號ノ船渠ハ5月23日新嘉坡發「バシ」（6月1日通過）、對馬、津輕（6月13日通過）ノ諸海峡ヲ經由シ6月21日「ペトロ・パウロフスク」ニ到着セリ

備考

所要回航日數82日（4月1日「オデッサ」發）

航程、　約10,000浬

（終）

S 61401 254

F-0058

0236

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(分類 E1.4.0.3)

普通第 三二六 號

昭和十三年十二月一日

在浦潮斯德
總領事 七田基玄

外務大臣 有田八郎 殿

「ソウガワニ」ニ建設中ノ第一船舶修理工場ニ關スル件

十一月二十七日ノ赤旗紙ハ一九三七年竣工ノ筈ナリシ「ソウガワニ」ニ於ケル第一船舶修理工場ノ狀況ニ關シ同工場ハ有害分子ノ策動ニ依リ工事捗々シカラサリシカ今般水運人民委員ハ一九三九年中ニ大体建設ヲ完了スヘシトノ命令ヲ發シタル旨竝同船舶修理工場ノ本冬季船舶修理計劃中ニハ汽船「クラスノアルメーエツ」號外四隻ノ修理含マレ居リ工場ノ一部ハ既ニ運營セラレ居ル旨報シ居ルニ付右記事大要左ノ通譯報ス

在浦潮日本帝國總領事館

「「ソウガワニ」ニ建設中ノ第一工場ハ太平洋沿岸ノ造船及船舶修理基地トシテ水運上重要意義ヲ有ス」トノ水運人民委員「エジヨフ」ノ命令ハ極東國營海洋船舶部ニ對スル第一工場ノ意義ヲ明カナラシムルモノト言フヘシ、政府ノ命令ニ依レハ工場建設ハ一九三七年完了セラルヘキ筈ナリシカ建設事業及「ダリストロイウオド、トレスト」内ニ活動セル人民ノ敵ハ此ノ大施設ヲ政府指定ノ期間内ニ完了セシメサル樣有ユル手段ヲ講セリ、水運人民委員ハ極東船舶部及「ダリストロイウオド」ニ對シ此ノ重要建設作業ニ於ケル有害行爲ノ殘物ヲ急速一掃スル爲斷乎タル處置ニ出ツヘキコトヲ命シ本年工場ニ於テハ大船舶修理計劃ノ遂行ヲ保障スル作業場及諸機械ヲ運轉スヘキ筈ナリシモ船舶部及「ダリストロイウオド」指導者ハ人民委員ノ命令ヲ遂行スル爲努力スルトコロ餘リニ少ナク黨中央委員會二月一三月總會後ニ於テスラ長ク工場支配人トシテ人民ノ敵「クラウツオフ」ノ活躍ヲ見タリ、全建設期間中船舶部指導者ハ建設作業ニ充分

在浦潮日本帝國總領事館

F-0058
0237
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ注意ヲ拂バス實際ニ於テ長期ニ亘リ建設作業ハ無指導ノ儘放置セラレ現在ニ於テモ主任技師トシテ工場ニ派遣サレタル黨員「ネステロフ」ノ如キハ解任方ノ電報ヲ本部ニ亂打シ居ル有様ナリ、有害行爲撲滅運動行ハレサル結果冬季船舶修理ニ對スル工場ノ準備不良ニシテ勞働力ノ不足ヲ感シツ、アリ船舶部ハ工場ニ對シ熟練工ヲ保障スルハ水運人民委員部ノ任務ナリトシ今日迄手段ヲ講セス最近ニ至リ漸ク勞働者ノ募集ヲ開始セリ「ソウガワニ」地方ニ於ケル航海季節近ク終了スルニ拘ラス多數ノ修理材料ハ未タ工場ニ到達シ居ラス而モ本冬季第一工場ハ大規模ノ船舶修理計劃ヲ遂行セサルヘカラス汽船「クラスノアルメーエツ」ハ浮船渠ニ入ルヘク又「スウイルストロイ」、「サハリン」、「ウダルニク」、「オーラ」等ノ諸船舶モ大規模ノ作業ヲ要スヘク之カ爲船舶部指導者ハ工場ノ緊急必要ヲ充足スル上共ニ具体的指導ニ當ラサルヘカラス、水運人民委員「エジョフ」ハ終航期迄ニ工場ニ對シ冬季船舶修理計劃遂行上ノ必要品

在浦潮日本帝國總領事館

B

S 61401 257

全部ヲ保障スル様命令シ居ルヲ以テ船舶部トシテハ工場ニ對スル勞働力ノ保障、修理材料、糧食、機械類ノ輸送等ノ爲努力セサルヘカラス、水運人民委員ハ工場ノ建設完了期ヲ大体一九三九年ト決定シ建設作業促進ノ目的ヲ以テ個々ノ作業場ノ完成期ヲ一九三九年ヨリ本年ニ移セリ、目下作業シツツアル第一工場ノ一部ニ於テ船舶修理計劃ヲ首尾能ク遂行スルコト及政府指定ノ期間内ニ強力ナル船舶修理基地ヲ沿海州ニ創設スルコトハ重大使命ナリ　云々

本信寫送付先　在蘇聯邦大使

在浦潮日本帝國總領事館

B

S 61401 258

F-0058

0238

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

外務大臣

情報部

分類F1.4.0.3

歐亞局

機密公第七九號

昭和十四年三月十九日

在滿洲國
特命全權大使　植田謙吉殿

在黑河
副領事　豊原幸夫

武市レンザトン造船所擴充計畫ニ關スル件

當館ニ於テ諜知シタル處ニ依レハブラゴエシチエンスク市東端アムール、ゼーヤ兩江合流點ニ位置スルレンザトン造船及船舶修理所ニ於テハ本年解氷期ヲ期シテ造船能力ヲ增大スル目的ヲ以テ其ノ附屬工場及職工員數ヲ增加シ右造船所ノ擴大強化ノ計畫ヲ樹テ武市關係機關ト懇討協議ノ上右計畫ニ基キ之カ遂行ニ要スル經費支出方ヲ該所長ヨリ蘇聯中央政府ニ申請中ナリシ由ナルカ最近莫斯科政府ハ財政上ノ關係ニテ本年度ハ右所要費ノ支出困難ナリトテ本件申請ヲ拒絶スル旨通知セル趣ナリ本諜報ノ眞偽ハ別問題トシテ昭和八年（一九三三年）六月頃即チ第二次五ケ年計畫ノ端緒ノ年當時武市ニ在勤シ居タル本官ハ偶然ノ機會ニ於テ部外者ノ參觀ヲ厳禁サレオル本造船所ヲ視察シタリシカ（當時ノ模様ハ武市ヨリ報告シ置キタリト記憶ス）其ノ當時ハ未タ工場數モ少ナク設備ノ點モ間然タルモノアリシヤニ記憶スルモ爾來蘇聯カ對日滿ノ關係上愈東ノ軍備ヲ擴充スルニ伴ヒ本造船所ハ以前ニ比シ相當完備セル施設ヲ行ヒ造船及船舶修理能力ヲ增大化セシトノコトヲ聞キ及ヒ居タルカ或近年ニ至リ日蘇關係異常ナル緊張ヲ呈スルニ至リタル爲メ右造船所當局並武市關係機關カ一層擴充ノ要ヲ中央ニ進言スルト共ニ右擴充費支出方ヲ申請シタルハ確實性アルヤニ首肯セラルヘシ

右報告申進ス

在齊齊哈爾日本總領事館黑河分館

F-0058
0239
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本信寫送付先　外務大臣

在齊齊哈爾日本總領事館黑河分館

B

S 61401 261

外務省調査局第二課

秘

寫

分類 F14.0.3

秘第七二號

昭和十九年三月二十九日

在牡丹江
領事代理　古屋克正

在滿
特命全權大使　梅津美治郎殿

浦潮造船工場ニ關スル件

本件ニ關シ某機關報別紙寫ノ通何等御參考迄送付ス

本信寫送付先　大東亞大臣　外務大臣
哈爾賓總領事

昭和拾九年四月拾參日受

別紙添附

在牡丹江日本領事館

B

(日本標準規格B5)

S 61401 262

F-0058

0240

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

浦潮二〇二號極東造船工場及同附屬
實習學校ニ關スル斷片情報

1、浦潮第二〇二號極東造船工場ニ就テ
1本工場ハ「ウオロシーロフ」名稱ヲ有シ海軍艦艇ノ建造並ニ修理ニ任シアリ
內部ノ組織其ノ他詳カナラサルモ小鍛治、旋盤、電氣熔接、電氣機械組立、船殼組立、鑄工、器具、木工、塗料（塗色）鋼部分品製造其ノ他ノ各工場ニ分レアルモノノ如シ
2現在同工場從業員、勞働者ノ數ハ不詳ナルモ一九三九年春頃ハ約一一、〇〇〇名ナリ而シテ技術勞働者ハ殆ト大部分兵役免除セラレアリ
戰後特ニ近年ニ於テハ新ニ採用スヘキ技術勞働者ハ徵用ニヨリ強制的ニ募集シアルカ如ク次項ノ工場附屬實習學校ノ生徒モ志願ニ依ラス小學校、中學校卒業者ヲ徵用ノ形ニテ入所セシメアリ

3工場ノ出入ハ嚴重ニシテ本工場ニテ發給セル通行許可證ヲ所持スル者及特定ノ者ニ限ル即チ從業員、勞働者ハ常時通行許可證ヲ所持シアリ
4最近ハ一晝夜二交代制一〇時間勞働ノ規定ナリ然レ共實情ハ每日一一―一三時間勞働ニシテ勞務ハ著シク過重ナルカ如シ
勞働者ノ過重ニ加フルニ給養量不足シアル現狀ニシテ勞働者ハ相當困難ナル生活ヲ營ミアルモノノ如シ
最近ニ於テハ軍側ヨリノ機械部分品ノ註文多キ爲勢ヒ長時間勞働ノ餘儀ナキニ至リアリ

二、工場附屬實習學校
1本工場ハ附屬實習學校ヲ有シ青少年熟練工ヲ養成シアリ學校ハ「ダリザウオードスカヤ」街ニ在リ
2內部ハ左ノ如キ各科ニ分レ修業年限ハ科每ニ異リ一年、一年半二年ナリ
船舶組立科　二年

F-0058
0241
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

旋盤科　二年
電氣熔接科　一年半
電氣機械組立科
鍛工科
塗科（染色）科
木工科
部分品製造科
小鍛冶科　一年半
自動車科　一年

各科ニ一名宛各々專門ノ教師ナリ

一九三九年春頃ハ全生徒數三〇〇名以上ナリキ

3 入學資格ハ小學校卒業以上ノ學力（四年修了以上）ヲ有スルモノ年齡ハ一四歲ー一八歲迄ノ者前科ヲ有セサル者身體强健ニシテ健康診斷書ヲ有スル者戸籍謄本ヲ有スル者トセラレアリ

志願者ニ對シテハ入學試驗ヲ實施ス

4 授業時間ハ毎日平均八時間ナリ

實習生徒ニハ毎月八〇ー一二〇留ノ給費アリ成績ニヨリ給費額ニ若干ノ差異アリ又特ニ成績不良ナルモノニハ支給セサルコトアリ

授業時間終了後ハ自由ニ外出ヲ許可ス

實習生徒ハ總テ學校ノ近クニ在ル寄宿舍ニ收容セラル

本工場實習學校ハ一九四〇年十月「ソ」聯邦最高會議幹部會命令「ソ」聯邦國家勞働豫備軍ニ關スル件」ニ依リ各地ニ設ケラレタル工場實習學校トハ異リ（當時既ニ存在シアリタリ）工場自體ノ熟練工養成ノタメ設立セラレタルモノナリ

F-0058
0242
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp